

1 大昔のくらしとくにの成り立ち—旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代—

▼指導ページ P 4～13▼

指導のねらい ★日本の原始時代の時代区分と各時代の特徴を理解する。
★各時代の人々の生活、大陸との交流、遺跡を学習する。

重要事項の確認	補足知識・留意事項など
<p>① 旧石器時代 【基本1】</p> <p>(1) 旧石器時代(約1万3000年～1万2000年前まで) 氷河期、大陸と陸続き、狩りや採集、打製石器の使用、ほら穴で生活</p> <p>(2) 旧石器時代の遺跡 ①野尻湖遺跡(長野県) ナウマン象、おおつのじかの化石 ②岩宿遺跡(群馬県) 1946年、相沢忠洋が打製石器を発見</p> <p>② 縄文時代 【基本1】</p> <p>(1) 縄文時代(約2300年前[紀元前4世紀ごろ]まで) 日本列島の誕生(氷河期が終わり、海面が上昇)、縄文土器の使用、土偶</p> <p>(2) 縄文時代の人々のくらし 竪穴住居(台地に定住)、狩りや採集、貧富の差がない、磨製石器の使用</p> <p>(3) 縄文時代の遺跡＝貝塚の発掘 ①大森貝塚(東京都) 明治時代、アメリカ人モースが発見 ②鳥浜貝塚(福井県) 日本最古の糞石(大便の化石)を発見 ③三内丸山遺跡(青森県) 縄文時代最大の集落</p> <p>③ 弥生時代 【基本1】</p> <p>(1) 弥生時代(紀元前4世紀ごろ～3世紀) 弥生土器(東京都文京区弥生で初めて発見)の使用</p> <p>(2) 弥生時代の人々のくらし ①稲作の広まり 大陸から伝来、九州から東北まで、田げた、石包丁、高床倉庫 ②社会の変化 貧富の差→指導者のムラ支配 土地や水をめぐる戦い ムラ→小さなクニ→大きなクニ ③金属器の使用…青銅器＝祭器、鉄器＝武器や農具</p> <p>(3) 弥生時代の遺跡 ①板付遺跡(福岡県) 初期の稲作のあと ②登呂遺跡(静岡県) 大きな水田や集落のあと ③吉野ヶ里遺跡(佐賀県) 環濠集落(敵の侵入を防ぐ堀)、物見やぐら</p> <p>(4) 大陸との交流 ①「漢書」地理志(紀元前1世紀ごろ) 倭人は100あまりの国にわかれる ②「後漢書」東夷伝(1世紀ごろ) 漢委奴国王の金印(福岡県志賀島で発見) ③「魏志」倭人伝(3世紀ごろ) 30か国にまとまる 邪馬台国の卑弥呼、中国(魏)に使いを送る</p> <p>④ 古墳時代 【基本1】</p> <p>(1) 古墳時代(3世紀ごろ～7世紀ごろ) 豪族の勢力争い→大和地方(奈良県)の豪族らが大王を中心に大和政権をつくる 古墳＝大王や有力豪族の大きな墓、副葬品、埴輪、前方後円墳(日本独特)</p> <p>(2) 大和政権(ヤマト政権・大和朝廷) ①日本の国土統一 大和朝廷…大王を中心とした政府 氏姓制度…氏(それぞれの豪族のつくる集団) 姓(役職をしめす) ※臣・連など 有力豪族…蘇我氏(財政)、物部氏(軍事) 稲荷山古墳の鉄剣の「ワカタケル大王」の文字 →大和朝廷の全国統一がわかる</p> <p>②朝鮮半島への進出 朝鮮半島南部(伽耶[任那])と結びつきを強めた 「百濟」と結んで「高句麗」「新羅」と戦った →高句麗の好太王[広開土王]の碑</p> <p>(3) 朝鮮半島・中国との交流 ①文化・技術の伝来 ・漢字・儒教(5世紀) ※漢字…朝廷の記録や文書の作成に使用 ※儒教…孔子の教え、道徳をつくるものとなる ・仏教(6世紀)→百濟から伝わる ※寺院の建立、古墳がつけられなくなる ・その他…すえ器、用水路や土木工事の技術、養蚕・はた織りなどの技術</p> <p>②中国との交流 倭王「武[雄略天皇]」の手紙→中国の皇帝に保護を求める</p> <p>発展学習</p> <p>① 「年代」のとらえ方 ①西暦 ②世紀 ③元号(日本独自)</p>	<p>① 旧石器時代</p> <p>(1) 旧石器時代 なぜ大陸と陸続きだったかを理解させる。 →当時の地球は、寒冷な氷河期であり、氷河で海面が下がっていた。 日本人の祖先が何のために移住してきたかなどに留意させたい。</p> <p>(2) 旧石器時代の遺跡 遺跡に関しても生活形態と結びつけることが重要。 →ナウマン象やおおつのじかの化石、打製石器が発掘されている。</p> <p>② 縄文時代</p> <p>(1) 縄文時代 大陸と分かれ日本列島が誕生。→移動できる距離が限られる。</p> <p>(2) 縄文時代の人々のくらし 移動できる範囲が狭い。 →〔定住 食料の調達方法の発達〕という構図をおさえるようにしたい。</p> <p>③ 弥生時代</p> <p>(1)～(3) ポイントは稲作の開始！ 稲作が始まった事によりどのような変化が起こったのかを理解させたい。 特に大きな変化として ・稲作に関連する道具 石包丁、高床倉庫、弥生土器、金属器 ・貧富の差 →吉野ヶ里遺跡がその象徴</p> <p>(4) 大陸との交流 中国の国名はいろいろと変化しているため、中国の歴史も簡単に説明する事が必要であろう。 (例) 秦…秦の始皇帝が「万里の長城」をつくる ↓始皇帝の圧政 漢…ローマとの間にシルクロード ↓ 三国時代…魏・呉・蜀で争う ↓ 晋…統一</p> <p>④ 古墳時代</p> <p>(1) 古墳時代 ※古墳の発生…地図で古墳の分布地域を確認させる。西日本中心。 ※古墳の特色 ・古墳の形…前方後円墳の形を資料を見て確認させる。 ・古墳から出土されるもの…埴輪と縄文時代の土偶を区別させる。</p> <p>(2) 大和政権 ① ワカタケル大王＝雄略天皇＝倭王「武」であることを確認する。 氏姓制度とは職業の世襲制度であった。のちの聖徳太子の冠位十二階は氏姓制度を廃止したものである。 ② 高句麗好太王の碑…当時の日本の勢力が朝鮮半島南部に及んでいたことを示す資料。</p> <p>(3) 朝鮮半島・中国との交流 ① 文化・技術の伝来 渡来人が伝えたものをまとめさせる。 仏教は、6世紀に百濟から正式に伝えられる。 すえ器は薄く固い土器。ろくろを使い、高温で焼く。 ② 倭王「武」の手紙…中国南朝に対し、朝廷が半島南部の支配権を認めてもらおうとしたことを理解させる。</p>

2

天皇中心の政治へー飛鳥時代・奈良時代ー

▼指導ページ P 14 ~ 23 ▼

指導のねらい ★日本の律令政治から奈良時代までのながれを理解する。
★天皇中心の政治の始まりや法律の始まり、生活、文化を学習する。

重要事項の確認	補足知識・留意事項など
<p>1 飛鳥時代 【基本1】</p> <p>(1) 飛鳥時代(6世紀末～710年) 天皇を中心とした朝廷による国づくり、政治の中心である都が飛鳥地方(奈良県)に</p> <p>(2) 聖徳太子[厩戸皇子]の政治 ①有力豪族の争い…仏教をあつく信じる蘇我氏と仏教を受け入れない物部氏の対立 ②聖徳太子の政治改革 聖徳太子の登場…仏教をあつく信じる →蘇我馬子とともに天皇中心の政治をめざす ・冠位十二階(603年)…実力で役人を選ぶ ・十七条の憲法(604年)…役人の心得をしめす ・遣隋使(607年)…隋に小野妹子を派遣</p> <p>(3) 大化の改新の政治 ①大化の改新…天皇中心の国づくり ・蘇我蝦夷・入鹿の力が天皇以上のものとなる ・645年、中大兄皇子と中臣鎌足が蘇我氏をほろぼし、元号を「大化」にする→大化の改新 ②大化の改新の政治 唐の政治を手本(遣唐使)、政治の方針(改新の詔) ③白村江の戦い(663年) 唐・新羅の連合軍に敗れる(百済を救うため) 中大兄皇子→大津宮に遷都、天智天皇に即位</p> <p>(4) 天武天皇・持統天皇の政治 ①壬申の乱(672年) 天智天皇の死後のあとつぎ争い(大海人皇子 vs 大友皇子) 大海人皇子→天武天皇に即位、富本銭(日本最古の貨幣) ②藤原京の建設(694年) 天武天皇の后が持統天皇、藤原京(奈良県橿原市)</p> <p>(5) 律令政治の始まり ①大宝律令の成立(701年) 文武天皇の時代、刑部親王・藤原不比等らによる ②律令にもとづいた政治 律(刑罰の内容)、令(政治の内容) (律令政治) ・都…2官8省 ・地方…国(国司は都から派遣された貴族) 郡(郡司は地方の豪族) 里(里長は有力な農民、税をとりたてる) ※太宰府は九州の行政・外交</p> <p>③律令制のもとでの土地制度 公地・公民…土地・人民は国家のもの 班田収授法…6年ごとに戸籍 6歳以上の男女に口分田</p> <p>④税のしくみ ・税の種類 租(稲)、庸(布)、調(特産物) ※庸と調は都まで運ばなければならなかった ・労役…雑徭・兵役…衛士(都の守り)、防人(九州の守り)</p> <p>(6) 和同開珎の誕生(708年) 元明天皇の時代、武蔵国の秩父での銅の発見を記念</p> <p>2 奈良時代 【基本1】</p> <p>(1) 奈良時代(710年～794年) 元明天皇の時代、藤原京から平城京(奈良県奈良市)に遷都、唐の都の長安をモデル</p> <p>(2) 奈良時代の人々の暮らし ①はなやかな都の暮らし…平城京の東西に市(特産物の取引)、木簡からわかる ②地方の人々の暮らし…農民の生活は苦しかった →土地を捨てて逃げる、戸籍をごまかす ※「貧窮問答歌」山上憶良…農民の苦しい生活</p> <p>(3) 聖武天皇の政治 ①仏教にもとづいた政治 乱れる世の中…聖武天皇は仏教をさかんにしようとした 光明皇后は慈善事業を行った ・国分寺・国分尼寺…国ごとにつくる ・東大寺大仏…総国分寺として東大寺、行基の協力 ②くずれる公地・公民制 ・三世一身の法(723年)→3代まで土地の私有を認めるが失敗 ・墾田永年私財法(743年)→土地の永久私有を認める→私有地=荘園</p> <p>(4) 飛鳥時代～奈良時代の外交 唐の文化や制度を学ぶため、遣唐使(留学生や僧)を送る 630年の第1回遣唐使(犬上御田鍬)→894年まで</p>	<p>1 飛鳥時代</p> <p>(2) 聖徳太子[厩戸皇子]の政治 聖徳太子の登場 聖徳太子は推古天皇の摂政として政治を行う。 蘇我馬子の協力を得て、天皇中心の政治を目指し、仏教を奨励する。 冠位十二階…六色をそれぞれ大・小に分け、十二の位をつくる。 氏姓制度をやめ、実力に応じ役人を選ぶ。 十七条の憲法…資料は重要。資料中の天皇の命令を「詔」という。 遣隋使…隋と対等な立場で外交しようとしたことを説明する。</p> <p>(3) 大化の改新の政治 天皇中心の国づくり このとき初めて元号が使用されたことを確認。 中大兄皇子は天智天皇として即位、中臣鎌足は藤原氏の祖先であることを説明しておくこと。 改新の詔は後に大宝律令にまとめられる。 当時の百済は日本と友好関係にあり、新羅と対立していたことを説明しておく。 7世紀に朝鮮半島を新羅が統一したことは重要。 天智天皇は初めての戸籍を作成した天皇でもある。</p> <p>(4) 天武天皇・持統天皇の政治 天武天皇のころに天皇中心の政治が完成。 持統天皇は天武天皇の妻であることを確認させる。 藤原京は日本最初の大规模な都であり、その都の名から中臣氏は藤原氏となる。</p> <p>(5) 律令政治の始まり ③ 公地公民、口分田、班田収授の用語を記憶させた上で、それぞれの内容についてを理解させる。 戸籍が6年ごとにつくられたこと、6歳以上の男女に口分田があたえられたことを理解させる。 ④ 農民はさまざまな税をおっていたことを理解させる。 租・庸・調のそれぞれの内容、雑徭や衛士・防人の内容はきわめて重要な内容。 また、税の厳しさからのがれるため、農民がとった行動にも着目させること。</p> <p>2 奈良時代</p> <p>(2) 奈良時代の人々の暮らし ① 和同開珎、富本銭の用語は記憶させる。 木簡により当時のようすがわかることを理解させる。 ② 農民は負担が重いために苦しい生活であったことを理解させ、その負担をのがれるためにとった行動についてもふれる。 山上憶良の「貧窮問答歌」の資料から農民の生活を確認させる。</p> <p>(3) 聖武天皇の政治 ① 国分寺・国分尼寺→仏教の力で国を治めるために、聖武天皇が国ごとに建てたことを理解させる。 東大寺大仏→行基の名前を記憶させる。 関連知識として、光明皇后が行ったことにもふれる。 ② 三世一身の法→なぜこのきまりが出されたか理解させる。 墾田永年私財法→貴族・寺社がこのきまりをもとに荘園をふやしていったことを理解させる。</p> <p>(4) 飛鳥時代～奈良時代の外交 遣唐使の派遣→地図上で遣唐使のルートを確認させる。 阿倍仲麻呂は留学生で、帰国できなかったことを確認させる。 鑑真に関しては、盲目になっても来日し、唐招提寺を建てたこともあわせて記憶させること。</p> <p>発展学習</p> <p>1 飛鳥～奈良時代の文化</p> <p>(1) 飛鳥時代の文化 飛鳥文化…中国や朝鮮半島だけでなく、インドやペルシアの影響もある(ギリシア文化→エンタシス) 法隆寺→世界遺産(柱がエンタシスという様子)</p> <p>(2) 奈良時代の文化 天平文化 聖武天皇の時代、唐の影響を受けた仏教文化であることを確認させる。 ①建築・美術品→資料に目を通させること。 ②古事記・日本書紀(歴史書)、風土記(地理書)、万葉集(和歌集)の資料名、および何の内容に関するものかを記憶させること。</p>

3

貴族による政治・武士の台頭—平安時代—

▼指導ページ 学習編：P 24～33▼

指導のねらい ★貴族による政治と平安時代の文化を学習する。
★武士の勢力拡大と院政との関わりを理解する。

重要事項の確認	補足知識・留意事項など
<p>1 平安時代 【基本1】</p> <p>(1) 平安時代(794年～1185年ごろ) 平城京(奈良県)から平安京(京都府)に移り、平安京が政治の中心であった約400年間</p> <p>(2) 平安時代の特色 政治の中心が、天皇→貴族→上皇→武士へと変化</p> <p>2 平安京の建設 【基本1】</p> <p>(1) 平城京から平安京へ 仏教勢力が政治に口を出す→桓武天皇が律令政治の立て直し→784長岡京(建設責任者の暗殺)→794平安京(明治まで約1100年間の首都)</p> <p>(2) 東北地方の平定→東北地方の蝦夷が反乱 坂上田村麻呂を征夷大將軍にして蝦夷を平定</p> <p>(3) 増える民衆の負担 平安京の建設・東北地方の平定→律令政治の立て直し→世の中の安定→民衆の負担増→朝廷の弱体化</p> <p>3 貴族による政治 【基本1】</p> <p>(1) 強まる貴族の力 ・藤原氏の進出→藤原氏(藤原鎌足の子孫)一族が政治に進出する ・摂関政治→藤原氏は摂政・関白の位=摂関政治 ※天皇が女性や子どものときに摂政、大人になってからは関白となり、政治を行う</p> <p>(2) 摂関政治の始まり ・藤原良房→初めて摂政の位につく ・藤原基経→初めて関白の位につく</p> <p>(3) 摂関政治の全盛期 ・藤原道長→摂関政治の全盛期をつくる ・藤原頼通→道長の子とも 摂関政治の全盛期</p> <p>(4) 地方の乱れ…荘園の開発 ・不輸の権→税をとられない権利 ・不入の権→役人の立入を認めない権利 ・不正をはたらく国司→藤原元命(尾張の国司)</p> <p>(5) 武士の発生→人々は身を守るため武器を持つ ・武士は武士団をつくる=清和源氏、桓武平氏</p> <p>(6) 武士の反乱と成長 ①平将門の乱(935年)→関東地方でおこる ②藤原純友の乱(939年)→大宰府を襲撃する ③前九年の役(合戦)(1051年)、後三年の役(合戦)(1083年)=東北地方、源義家が平定</p> <p>4 上皇による政治(院政) 【基本1】</p> <p>(1) 院政の開始 ※上皇=天皇をやめた人 院=上皇の住まい ・1086年白河天皇が上皇となり、院政を始める</p> <p>(2) 都での武士の活やく ・僧兵の横暴→武士が朝廷の警備にあたる(北面の武士)</p> <p>(3) 保元の乱(1156年)・平治の乱(1159年) ・保元の乱(1156年)=天皇家・藤原氏などが2つに分かれ京都で起こる ・平治の乱(1159年)=平清盛と源義朝の戦いで平清盛が勝利</p> <p>5 武士による政権(平氏政権) 【基本1】</p> <p>(1) 平清盛の政治 1167年平清盛が太政大臣、娘を天皇の妃にする 日宋貿易(大輪田泊、現在の神戸)、厳島神社をつくる</p> <p>(2) 高まる平氏への不満 「平家でなければ人ではない」平氏一族による高位高官の独占</p> <p>6 平安時代の外交 【基本1】</p> <p>(1) 遣唐使の停止(894年) 菅原道真の意見 ①唐の国内で内乱が続き衰退②東シナ海を通るルートが危険</p> <p>(2) 日宋貿易 唐の滅亡→宋の建国→民間の貿易→平清盛が貿易に力を注ぐ</p> <p>発展学習</p> <p>1 平安時代の文化</p> <p>(1) 唐風文化(平安時代初期) ・最澄(伝教大師)→比叡山に延暦寺(奈良県)建立、天台宗の開祖(人間は仏の前では平等) ・空海(弘法大師)→高野山に金剛峰寺(和歌山県)、真言宗の開祖(教育に力を入れる、密教に近い)</p> <p>(2) 国風文化(平安時代中期) 文字・絵画 ・漢字をもとに→かな文字(女性の使用) ・女流文学者→紫式部(源氏物語)、清少納言(枕草子) ・大和絵や絵巻物もこの時代につくられ始めた</p> <p>(3) 浄土教文化 浄土教の広まり 阿弥陀堂→平等院鳳凰堂(藤原頼通)・中尊寺金色堂(奥州藤原氏)</p>	<p>2 平安京の建設</p> <p>○平安京の建設…律令政治の立て直しのための桓武天皇の政策。 ・農民の負担を減らすため兵役を廃止し、また、国司の不正とりしまりのため令外の官をもうけたことも重要。 ・仏教の影響を減らすための政策でもあり、この時期の空海・最澄の仏教との特徴を関連づける。</p> <p>○東北地方の平定 ・地図上で、東北地方の平定がすすんだことを確認させる。 ・坂上田村麻呂の人物と征夷大將軍の役職名は必ず記憶させる。</p> <p>3 貴族による政治</p> <p>○藤原氏の発展 ・藤原氏の基盤固め→天皇家に娘を嫁がせることにより、皇太子の祖父母となることを計画的に実行。 荘園の制度をうまく利用して、経済的余裕を確実なものにしていった流れをしっかりと理解させる。社会的な立場を確実なものにするために、天皇家との姻戚関係、地位の確立のために、有力貴族の訴追、経済的な立場の確立のために、荘園制度の有効活用と、この3点を追求していくことで藤原氏の力を確実なものにしていった。</p> <p>(6) 武士の反乱と成長</p> <p>○平将門の乱、藤原純友の乱 ・関東地方で平将門の乱、瀬戸内地方で藤原純友の乱がほぼ同じ時期におこっていることを確認させる。 ・武士の初めて大きな反乱事件でもある。</p> <p>○前九年の役(合戦)、後三年の役(合戦) ・摂関政治全盛時期とほぼ同じころ、東北地方でおこった事を確認させる。 ・また、これを平定した源義家により源氏が関東地方に勢力をのびし、次の鎌倉時代につながることを理解させる。</p> <p>4 上皇による政治(院政)</p> <p>(1) 院政の開始 ・院、上皇などの用語は重要。年代も記憶した方がよい。</p> <p>(2) 武士の活躍 ・天皇方と上皇方の対立に武士がからんでいる姿を資料で確認。 ・保元の乱は武士が京都に進出するきっかけとなった事件。 ・保元の乱を通し、武士が自らの力を確認し平治の乱につながり、平清盛が政権を握ることになった過程を理解させる。</p> <p>5 武士による政治(平氏政権)</p> <p>・平清盛が貴族化した流れを確認。 ・大輪田泊で日宋貿易を行ったことは重要。大輪田泊は場所を確認。</p> <p>発展学習</p> <p>1 平安時代の文化</p> <p>中央の貴族はずっと中国・唐を意識し続けるのであるが、律令制の破綻と共に、日本国内の地方の勢力が強くなり、風土記的な地方国の文化を有る程度中央でも吸収しておくことが必要となってきた。このことで唐風文化に対して、国風文化が中央でも認められ位置付けられた。従って、律令制下における国風文化とは地方の文化を意味するので、後世の日本独自の和風文化とは区別して考える必要があることも注意点である。</p> <p>(1) 唐風文化(平安時代初期)…僧の名前・宗派・山・寺を記憶。 (2) 国風文化(平安時代中期) ・遣唐使の廃止で国風文化が生まれたことを理解させる。 ・文学作品名・作者名は必ず記憶。 ・かな文字の発明と女流文学者の活躍の関係も確認させる。</p> <p>(3) 浄土教文化</p> <p>○浄土教のおこり 浄土教=大乘仏教に属し、別名「阿弥陀信仰」または「浄土信仰」とも言う。日本では、天台宗や浄土真宗や時宗も仲間である。</p> <p>○浄土教の広まり 平安末期の終末論思想により、藤原頼通が阿弥陀堂として平等院鳳凰堂を建てた。 阿弥陀信仰により、中尊寺金色堂や法界寺阿弥陀堂もある。</p>

4

武士の世の中と鎌倉幕府—鎌倉時代—

▼指導ページ 学習編：P 34～43▼

指導のねらい ★鎌倉時代の、武士の政治と外交の流れを学習する。
★鎌倉武士の暮らし、産業と文化について理解する。

重要事項の確認	補足知識・留意事項など
<p>① 鎌倉時代 【基本1】</p> <p>(1) 鎌倉時代(1185年ごろ～1333年) 平氏を滅亡させた源氏の中心人物である源頼朝は政治の中心を鎌倉に定め、幕府を開く</p> <p>(2) 源平の戦い…頼朝は伊豆で挙兵(1180年)、義経は1185年壇ノ浦の戦いで平氏を滅ぼす</p> <p>(3) 鎌倉幕府の成立(1185年ごろ) 守護・地頭の設置 守護(国ごと)・地頭(荘園ごと)の設置 鎌倉幕府の成立…1192年、頼朝は征夷大将軍となり鎌倉に幕府を開く <u>鎌倉に幕府を開いた理由</u> ・鎌倉は源氏に関係が深い土地であった ・京都だと政治が貴族化するおそれがあった ・三方が山、一方が海で守りやすい土地であった</p> <p>(4) 鎌倉幕府のしくみ→簡単に実際の ・将軍を助ける役目が執権(北条氏がつく)執権の下に<u>政所</u>・<u>問注所</u>・<u>侍所</u> ・地方には、<u>守護</u>・<u>地頭</u></p> <p>(5) 将軍と御家人 <u>封建制度</u>…土地をもとにした御恩(土地を与える)と奉公(戦う)の関係 武士の暮らし ・武家造という質素な屋敷に住む ・土地は命がけで守る = 「<u>一所懸命</u>」 ・何かあると鎌倉にかけつける = 「<u>いざ鎌倉</u>」 ・武士の訓練 = <u>笠がけ</u>・<u>流鏑馬</u>・<u>犬追物</u>など</p> <p>② 北条氏の政治(執権政治) 【基本1】</p> <p>(1) 源氏の滅亡 源氏は3代で滅亡(頼朝→頼家→実朝)</p> <p>(2) 承久の乱(1221年) ・後鳥羽上皇は北条義時を討つ命令を出す ・北条政子(頼朝の妻)の演説で幕府側の御家人はふるい立つ ・後鳥羽上皇は敗れ、隠岐に流される ・乱の後、京都に六波羅探題が設置される</p> <p>(3) 御成敗式目〔貞永式目〕の制定…1232年、北条泰時</p> <p>(4) 元寇と鎌倉幕府のおとろえ ①元寇の成立 チンギス=ハンがモンゴル民族をまとめる →フビライ=ハンが国名を「元」とする ②元寇 元軍は2度、北九州に攻めてくる →(1274年)文永の役・(1281年)弘安の役 ・執権は北条時宗、暴雨風のおかげで撃退する ・元軍の戦法=火薬を使った兵器、集団戦法 ③元寇後の鎌倉幕府 (1297年)永仁の徳政令→すぐに廃止 (1333年)後醍醐天皇らによって、鎌倉幕府は滅亡する</p> <p>③ 鎌倉時代の産業 【基本1】</p> <p>(1) 鎌倉時代の農業 ①農業の発達…<u>牛馬糞</u>(牛や馬を使った農作業)・草木灰(肥料)・<u>二毛作</u>(西日本で米と麦) ②地頭の横暴…「<u>泣く子と地頭には勝てぬ</u>」 →農民にうたえられる地頭も</p> <p>(2) 定期市の発達 宋からの銅銭の輸入(宋銭の流通) →定期市(月に3回)(食料品や日用品の取り引き) <u>座</u>(同業者組合)、<u>問</u>(運送業・倉庫業)の発達</p> <p>発展学習</p> <p>① 鎌倉時代の文化</p> <p>(1) 鎌倉文化の特色 = 素朴で力強い文化 (2) 鎌倉時代の新しい仏教 念仏や題目を唱えるわかりやすいもの (3) 鎌倉新仏教の宗派 <u>浄土宗</u>(法然)、<u>浄土真宗</u>(親鸞)、<u>時宗</u>(一遍) <u>日蓮宗</u>(日蓮)、<u>臨済宗</u>(栄西)、<u>曹洞宗</u>(道元) (4) 鎌倉時代の文学 平家物語(琵琶法師)、<u>方丈記</u>(鴨長明)、<u>徒然草</u>(吉田兼好)など</p>	<p>① 鎌倉時代</p> <p>(2) 源平の戦い ・源頼朝は伊豆で成長し、平氏を倒すために挙兵した。 ・壇ノ浦の戦いは、年代を記憶。場所は地図で確認させること。</p> <p>(3) 鎌倉幕府の成立(1185年ごろ) ・守護・地頭の設置と義経の逃亡について関連づけること。義経は各地を逃亡し、平泉で死亡。場所は説明しておくこと。 ・鎌倉に幕府が開かれることとなった理由は頻出項目。 ・「<u>切り通し</u>」という用語にもふれておくこと。</p> <p>(4) 鎌倉幕府のしくみ ・役職名とその役目はすべて暗記。律令の仕組みと比較したい。 ・<u>女性が地頭になることもあったこと</u>にもふれておくこと。</p> <p>(5) 将軍と御家人 <u>封建制度</u> ・資料をもとに将軍と御家人との関係を理解させる。 ・「<u>奉公</u>」…漢字の誤りに注意(「奉行」としないこと。) 武士の暮らし ・武家造の屋敷は資料で確認させること。 ・「<u>一生懸命</u>」「<u>いざ鎌倉</u>」の用語は重要。 ・<u>流鏑馬</u>は現在お祭りの際に演じられている。</p> <p>② 北条氏の政治(執権政治)</p> <p>(1) 源氏の滅亡…系図で北条政子が源頼朝の妻であることも確認。 (2) 承久の乱 ・政子の演説は頻出資料。何を訴えているのか、ふれること。 ・六波羅探題は朝廷の監視、西国の軍事・裁判をした。 (3) 御成敗式目〔貞永式目〕の制定(1232年) ・武士としての初めての法律であること、頼朝以来の先例をもとに作られたものであることを確認。 ・執権政治の流れはきちんとまとめておきたい。 (4) 元寇と鎌倉幕府のおとろえ ①元寇の成立…モンゴル帝国は史上最大の国。元はその中国地域。 ②元寇(元軍の襲来) ・いずれも暴雨風雨で助かり、「<u>神風</u>」「<u>神国</u>」などの考えが成立。 ・戦い方の違いで日本が苦戦したことを資料から説明する。 ・「<u>蒙古襲来絵詞</u>」→竹崎季長(肥後国) ③元寇後の鎌倉幕府 ・幕府は土地が手に入らず、御家人に満足な恩賞をを与えられなかった。 ・永仁の徳政令…御家人の借金を帳消しにするものであった。</p> <p>③ 鎌倉時代の産業</p> <p>○産業の発達と農民 ・<u>二毛作</u>が始まったことや、<u>月3回の定期市</u>は鎌倉時代。 ・当時の地頭が横暴であった姿を資料で確認させる。「<u>泣く子と地頭には勝てぬ</u>」という言葉はそのことを示したもの。</p> <p>発展学習</p> <p>① 鎌倉時代の文化</p> <p>(1) 鎌倉文化の特徴…武士中心の実践的な文化であった。 (3) 鎌倉新仏教 ・宗派の名前・僧の名前・教えの内容は暗記。 ・浄土真宗はのちに一向宗と言われたことを確認。 ・臨済宗・曹洞宗は禅宗であり、中国より伝来。 (4) 鎌倉時代の文学 ・特に重要なものは徒然草、平家物語である。 ・なお、金沢文庫は現在、横浜の地名になっている。 ○鎌倉時代の建築…2つの建物の資料は必ず目を通させる。 ・<u>東大寺南大門</u>、<u>円覚寺舍利殿</u> ○鎌倉時代の美術…<u>金剛力士像</u>(運慶・快慶)</p>

5

第1回～第4回のまとめ

▼指導ページ P 44～47▼

指導のねらい ★第1回～第4回までの重要事項を再確認し、徹底する。

重要事項の確認	補足知識・留意事項など
<p>① 第1回～第4回の復習</p> <p>(1) キーワードから確認する</p> <p>A 大和政権の大王、埼玉県出土鉄剣→ワカタケル(雄略天皇)</p> <p>B 推古天皇の摂政→聖徳太子(厩戸皇子)</p> <p>C 蘇我氏を滅ぼす、天皇中心の政治、大津に都→中大兄皇子(天智天皇)</p> <p>D Cの人物に協力、子孫が摂関政治→中臣鎌足(藤原鎌足)</p> <p>E 仏教、国分寺・国分尼寺→聖武天皇</p> <p>F 農民の生活を悲しむ→山上憶良</p> <p>G 律令政治の立て直し、平安京、蝦夷征伐→桓武天皇</p> <p>H 娘を天皇のきさき、子の頼通、摂関政治の全盛期→藤原道長</p> <p>I 自ら上皇として政治、院政→白河上皇</p> <p>J 武士として初の太政大臣→平清盛</p> <p>K 守護・地頭の設置、鎌倉幕府、征夷大將軍→源頼朝</p> <p>L Kの人物の妻、御家人への演説→北条政子</p> <p>M 御成敗式目、鎌倉幕府3代執権→北条泰時</p> <p>(2) 資料の読み取り問題</p> <p>① 「この世をば」「望月の」→摂関政治の全盛期→藤原道長</p> <p>② 「土器はくもの巣」「里長はむちを」→農民の貧困を伝える→山上憶良</p> <p>③ 「大仏」「大仏のお堂」→大仏建立と東大寺→聖武天皇</p> <p>④ 「さむらいたちよ」「この御恩は」→承久の乱と政子の演説→北条政子</p> <p>⑤ 「一に曰く」「和をとるとび」→十七条の憲法→聖徳太子</p> <p>(4) 肖像画から人物を特定する問題</p> <p>ア 中大兄皇子(天智天皇)</p> <p>イ 聖徳太子(厩戸皇子)</p> <p>ウ 藤原道長</p> <p>エ 聖武天皇</p> <p>(5) 大宝律令…日本初の「律(刑罰法)」と「令(行政法)」がそろった本格的な律令</p> <p>(8) 厳島神社…世界文化遺産、安芸の宮島、日本三景の1つ</p> <p>(9) エ 記録所…平安時代に朝廷が荘園の調査をするために置いた役職</p> <p>(10) 後鳥羽上皇…承久の乱の敗退後、隠岐(島根県)に流された</p> <p>② 第1回～第4回までの東アジア情勢</p> <p>(1) ① A 紀元前3世紀ころから1世紀まで=前漢 B 1世紀ころから3世紀=後漢 C 魏志(倭人伝)のころ=魏 D 遣隋使のころ=隋 E 遣唐使のころ=唐 F 平安後期 日宋貿易のころ=宋 G 鎌倉後期 元寇のころ=元</p> <p>③ 遣隋使…聖徳太子の国書、小野妹子、隋の皇帝「煬帝」</p> <p>④ 鑑真…中国仏教、律宗の僧、唐招提寺</p> <p>(2) ② 朝鮮半島の4世紀=北→高句麗、東→新羅、南→加羅(任那)、西→百濟</p> <p>③ 高麗…10世紀初めに成立した朝鮮の王朝</p> <p>(3) ② ア 縄文時代 イ 稲作は北海道ではおこなわれず エ 「鉄器」実用、「青銅器」祭器</p> <p>⑧ 北条時宗…鎌倉幕府第8代執権、北条得宗家の出身</p>	<p>① 第1回～第4回の復習</p> <p>(1) 基本的な重要単語だけでなく、各時代背景にあわせたクニの規模、農家への圧迫(法律的)、外国(特に朝鮮半島と中国)との関わりを、しっかり学習させておきたい。</p> <p>歴史は一時代だけをつかませるのではなく、流れを理解させることが重要である。受験でも、一問一答形式対策だけではなく、年表から時代背景を考えさせることや、農政の変化を時代ごとにまとめることも得点力につながってくる。</p> <p>(2) 史料の読み取り問題だが、法律などの内容を、すべてを覚えることは厳しいので、その中でのキーワードをしっかりとつかませたい。</p> <p>(5) 645年に中大兄皇子、中臣鎌足の二名が結託し、蘇我入鹿を代表とする蘇我氏を滅ぼす→大宝律令の成立</p> <p>(7) 天皇と政治の関係をしっかり学ぶことが重要である。藤原家の政略結婚による血縁関係づくりを考えると、いかに当時の天皇には絶対的な力を持たせていたかがわかる。</p> <p>② 第1回～第4回までの東アジア情勢</p> <p>(1) ④ 仏教を伝えるために、何人もの人物が海を渡ろうとして失敗している。その中でも空海や鑑真是必ず抑えておかなければならない。</p> <p>(2) 朝鮮半島から日本へ伝えられたものは数多くある。特に漢字や仏教など、今日の日本の中で当たり前となっている文化なども渡来人(朝鮮半島から日本へ渡ってきた人々)によって伝えられた。</p> <p>一方で、日本人も朝鮮半島を経由して中国に対して積極的な外交(当時は外交というよりは、互いの国の存在確認)を始めることになる。そこで朝鮮半島の加羅(任那)を日本が支配し始める中、高句麗と加羅で戦争に近い状態になる。日本は中国に救いを求める。</p> <p>(3) ① い 菅原道真…右大臣、学問の神様、全国の「天満宮(天神様)」でまつられる。</p> <p>う 大輪田泊…現在の神戸港の一部となっている。</p> <p>⑤ 埴輪…問題に示された人形のほかに建物・船・馬をかたどったものなど多くの種類あり。</p> <p>⑥ 唐は、遣唐使の停止後、間もなく滅亡し、宋が建国された。</p>

6

南北朝と室町幕府—室町時代(1)—

▼指導ページ P 48～57▼

指導のねらい ★建武の新政から応仁の乱までの政治の流れを学習する。
★室町時代の民衆の生活、産業と文化について理解する。

重要事項の確認	補足知識・留意事項など
<p>① 室町時代 【基本1】</p> <p>(1) 室町時代(1333年～1573年) 鎌倉幕府の滅亡後、1338年に足利氏が京都に幕府を開き、滅亡するまでの約240年間</p> <p>(2) 室町時代の時代区分 ①【建武の新政の時期】②【南北朝時代】③【室町幕府の安定期】④【戦国時代】</p> <p>② 建武の新政と南北朝時代 【基本1】</p> <p>(1) 鎌倉幕府の滅亡(1333年) ・後醍醐天皇は(1333年)に鎌倉幕府を倒す ・足利尊氏・楠木正成・新田義貞らの協力</p> <p>(2) 建武の新政(1333年～1336年) ・後醍醐天皇の天皇・公家を中心とした政治</p> <p>(3) 南北朝時代(1336年～1392年) ・足利尊氏は後醍醐天皇を京都から追い出し、新しく天皇をたてる(北朝) ・後醍醐天皇は吉野で、正式な天皇だと主張(南朝)</p> <p>(4) 室町幕府 ①室町時代の成立…足利尊氏は征夷大将軍となり京都に幕府を開く ②室町幕府のしくみ ・将軍を支えた役職が管領 ・地方では守護が成長して守護大名となる</p> <p>③ 室町幕府の安定期 【基本1】</p> <p>(1) 足利義満の政治 ・1392年に南北朝を合一 ・幕府の中心は「花の御所」 ・北山に金閣を建てる ・明との貿易を行う</p> <p>(2) 室町幕府のおとろえと応仁の乱 ①室町幕府のおとろえ 足利義満の死後、守護大名の力が強まる(将軍の暗殺も) ②応仁の乱(1467年～1477年) 8代将軍の足利義政、日野富子(義政の妻)、山名宗全(守護大名)、細川勝元(管領)義政のあとつぎ争い→都が東西に分かれる→約11年間の戦乱→京都焼け野原 ③応仁の乱後の社会 戦乱が全国に広がる→戦国大名が戦いをくり広げる戦国時代へ</p> <p>④ 室町時代の国際関係 【基本1】</p> <p>(1) 日明貿易 ①倭寇の活動 中国大陸 元→明、朝鮮半島 高麗→朝鮮 明や朝鮮の沿岸で活発な海賊活動をした西日本の武士や商人=倭寇 ②日明貿易(勘合貿易) 倭寇の取り締まりの為、勘合(合い札)を用いた貿易を行う=勘合貿易 ③日明貿易と経済の発達 貿易港 堺(大阪府)・博多(福岡県) 輸出品 銅・いおう・刀剣 輸入品 生糸、銅銭(明銭)「永楽通宝」</p> <p>(2) 琉球王国 北山・中山・南山の三勢力の争い→中山王の尚氏による沖縄島の統一 →中継貿易(日本・中国・朝鮮・東南アジアとの交易)による繁栄</p> <p>⑤ 産業の発達と民衆の成長 【基本1】</p> <p>(1) 農業の発達 二毛作の広がり、水車の利用、商品作物(みかん・ぶどう・木綿)</p> <p>(2) 商業・工業・交通の発達 月6回の定期市、座(同業組合)、西陣織、瀬戸焼、馬借</p> <p>(3) 村・町の自治と一揆 ①村・町の自治 生産力の向上→自治の始まり(惣[惣村])おきて、寄合 町の自治=町衆[富裕な商工業者](京都・堺・博多) ②一揆の始まり→一揆=心をついて行動する 土一揆=借金を帳消しにする徳政令を求める一揆 ・正長の土一揆(1428年) →近江国の馬借・農民が徳政をを求める ・山城の国一揆(1485年) →山城国で、国人と農民が守護大名を追い出し自治を行う ・加賀の一向一揆(1488年) →加賀国で、一向宗の信者が守護大名を滅ぼし自治を行う</p> <p>発展学習</p> <p>① 室町時代の文化(北山文化・東山文化) ・北山文化(足利義満のころ)…鹿苑寺金閣 ・東山文化(足利義政のころ)…慈照寺銀閣(書院造) ・室町時代の文学・芸能・絵画 芸能…能(観阿弥・世阿弥)、狂言 絵画…水墨画(雪舟)</p>	<p>② 建武の新政と南北朝時代</p> <p>(1) 鎌倉幕府の滅亡 ・後醍醐天皇は一度倒幕に失敗し、隠岐に流された。 ・後醍醐天皇に協力した武士の名前は覚えておきたい。</p> <p>(2) 建武の新政(1333年～1336年) ・資料より、この政治が混乱していたことを確認させる。 ・武士は恩賞が不十分であり、不満であったことを確認させる。</p> <p>(3) 南北朝時代→吉野(奈良県)の場所は必ず確認させること。</p> <p>(4) 室町幕府 ①室町時代の成立…室町に幕府が置かれたのは義満の代である。 ②室町幕府の政治 ・幕府の仕組みは鎌倉幕府と比較してみる。 ・管領・鎌倉府の役職、守護大名の用語は重要。</p> <p>③ 室町幕府の安定期</p> <p>(1) 足利義満の政治 ・義満は室町時代で学習する政治項目の中心なので、すべて暗記。 ・南北朝の合一に関しては、京都の天皇が正式の天皇となる。</p> <p>(2) 室町幕府のおとろえと応仁の乱 ・応仁の乱は11年間も続き、京都は焼け野原となる。多くの文化人が地方に逃れた為、地方に当時の文化が広がることとなる。 ・この乱で将軍の権力が失われ、戦国時代となったことを理解させる。</p> <p>④ 室町時代の国際関係</p> <p>(1) 日明貿易 ・この時期、東アジアで明・高麗・琉球王国などが成立している。 ・勘合の資料は必ず記憶させること。主な輸出入品目・貿易港は確認させること。 ・大内氏は貿易の利益を独占し、山口地方は「西の小京都」といわれ繁栄したことを説明すること。</p> <p>⑤ 産業の発達と民衆の成長</p> <p>(1) 農業の発達…水車の利用、商品作物の広がり、室町時代のこと。</p> <p>(2) 商業・工業・交通の発達 ・定期市の回数が3回から6回になったことを確認させる。 ・座は室町時代の同業組合であり、営業を独占していた。 ・この時期、明から輸入された銅銭が使われていた。 ・交通の発達…馬借は陸上交通。海上交通は問という業者がいた。</p> <p>(3) 村・町の自治と一揆 【基本1】 ※村の自治という語句があれば、ほぼ室町時代と考えてよい、尚、自治のある村のことを惣という。 ・正長の土一揆→徳政令を求め、酒屋・土倉を襲った出来事。 ・山城の国一揆→この後、京都の町衆により祇園祭が復活したこともふれておく。 ・加賀の一向一揆→守護大名を滅ぼし、約100年間にわたり自治を行った。</p> <p>発展学習</p> <p>① 室町文化(北山文化・東山文化) 北山文化…能が大成したのはこの頃。 東山文化…金閣は三階建て、銀閣は二階建てである。 ・銀閣は書院造であることは重要なので記憶させること。 ※書院造は現代家屋の元となっている。 ・禅宗の影響をうけた、気品のある簡素な文化である。 室町時代の文学・芸能・絵画 ・代表的な文学作品は、お伽草子(「一寸法師」「浦島太郎」)。 ・能は農村の田楽から発達した。 ・雪舟の水墨画は重要なので必ず記憶させる。</p>

指導のねらい ★戦国時代と天下統一への過程と中心人物について学習する。
★南蛮文化による変化と桃山文化の特徴について理解する。

重要事項の確認	補足知識・留意事項など
<p>① 室町時代後期(戦国時代) 【基本1】</p> <p>(1) 戦国時代(1467年～1573年) 応仁の乱後は戦国時代(約100年間)〔下剋上の世の中〕</p> <p>(2) おもな戦国大名</p> <p>①守護大名からなった戦国大名〔武田氏・今川氏〕 ②守護代からなった戦国大名〔上杉氏・朝倉氏〕 ③国人からなった戦国大名〔毛利氏・長宗我部氏〕 ④その他の身分からなった戦国大名〔北条氏・斎藤氏〕</p> <p>(3) 戦国大名の領国支配</p> <p>①富国強兵につとめた戦国大名(武田信玄)〔信玄堤・騎馬軍団〕 ②城下町の形成(朝倉氏)〔一乗谷城(北ノ京)最盛期1万人〕 ③分国法〔家法〕の制定(御成敗式目の影響)〔信玄家法〕〔今川仮名目録〕</p> <p>(4) ヨーロッパ人の来航</p> <p>①大航海時代 大航海時代…コロンブスなど航海者が船で世界をめぐる渡り ・南蛮文化…スペイン・ポルトガルの文化</p> <p>②鉄砲の伝来(1543年) ・種子島でポルトガル人が伝える→その後、堺などで生産される ・鉄砲伝来の影響→集団戦法・平地に天守閣を持つ城</p> <p>③キリスト教の伝来(1549年) ・フランシスコ・ザビエルが鹿児島に来航してキリスト教を伝える ・キリシタン大名の出現、少年使節の派遣</p> <p>② 安土・桃山時代 【基本1】</p> <p>(1) 安土・桃山時代(1573年～1603年) 織田信長による室町幕府滅亡から徳川家康による江戸幕府創設までの30年間</p> <p>(2) 織田信長の天下統一</p> <p>①桶狭間の戦い(1560年) 尾張の小大名であった織田信長が今川義元(海道一の弓取り)を破る</p> <p>②長篠の戦い(1575年) 織田信長が武田信玄の子の武田勝頼が率いる武田騎馬軍団を鉄砲隊の活躍で破る</p> <p>③本能寺の変(1582年) 織田信長が京都の本能寺に滞在していた折に家臣の明智光秀におそわれ自害する</p> <p>(3) 織田信長の政治 楽市・楽座、関所の廃止、仏教勢力との戦い・キリスト教の保護</p> <p>(4) 豊臣秀吉の天下統一</p> <p>①戦国の世の統一(1590年) 山崎の戦い(1582年)明智光秀を破る→賤ヶ岳の戦い(1583年)柴田勝家を破る→大阪城を築く(1583年)→北条氏の降伏(1590年)</p> <p>②文禄の役(1592年)・慶長の役(1597年) ・明の征服のため朝鮮出兵を行う ・1592年 文禄の役 ・1597年 慶長の役 →李舜臣の亀甲船に苦しむ ・朝鮮の陶工による有田焼・萩焼が始まる</p> <p>(5) 豊臣秀吉の政治 関白(1585年)→太政大臣(1586年)</p> <p>①太閤検地(1582年～)→統一した「ます」で、年貢のとれ高を計る ②刀狩令(1588年～)→農民から武器を取り上げる→兵農分離がすすむ ③キリスト教の制限(1587年～)</p> <p>発展学習</p> <p>① 安土・桃山時代の文化(桃山文化)</p> <p>・建築…姫路城(別名「白鷺城」) ・美術…障壁画(狩野永徳・唐獅子図屏風) ・茶道…千利休が大成 ・芸能…阿国歌舞伎(出雲の阿国) ・出版…活版印刷術によって出版される</p>	<p>① 室町時代後期(戦国時代)</p> <p>(1) 戦国時代(1467年～1573年) ・主な戦国大名に関しては地図上で確認させること。</p> <p>(2) おもな戦国大名</p> <p>①守護大名からなった戦国大名 ・武田氏→武田信玄…信濃(長野)、駿河(静岡)に領土を広げる。 「信玄家法」(1547年)、釜無川に信玄堤(山梨) ・今川氏→今川義元…三河の松平氏をしたがえる。「今川仮名目録」(1526年) ・資料より信玄家法→けんか両成敗などを説明すること。</p> <p>②守護代からなった戦国大名 ・上杉氏→上杉謙信(長尾景虎)…越後(新潟)を統一。信濃の川中島で武田信玄と戦う。毘沙門天を信仰。 ※関東管領については説明すること。 ・朝倉氏→朝倉孝景(敏景)…越前(福井)の守護代「朝倉孝景条々」を作って家臣をまとめる。一乗谷の城下町の整備 ※一乗谷→京都から貴族や文化人が訪れ栄えた。(北の小京都)</p> <p>③国人からなった戦国大名 ・毛利氏→毛利元就…石見銀山(島根県太田市)の銀を使い厳島神社を修理する。毛利両川の体制を築く(三本の矢) ・長宗我部氏→長宗我部元親…土佐(高知)、四国の統一。森林の保護に努める。</p> <p>④その他の身分からなった戦国大名 ・北条氏→北条早雲…関東一帯を支配する北条一族の基礎を築いた。 ※本城と支城の連絡体制は資料より確認させる。 ・斎藤氏→斎藤道三…油売りから戦国大名となる。「美濃のまむし」</p> <p>(3) 戦国大名の領国支配 ・戦国大名が生き残るため、富国強兵を行い分国法で結束させたことを確認させる。 ・堺、博多は自治都市の代表。堺は後に信長に支配される。</p> <p>(4) ヨーロッパ人の来航</p> <p>①大航海時代 ・コロンブスは15世紀末に新大陸を発見した。 ・南蛮文化の名残はカステラ・シャボン・カルタなどの語句。 ・貿易は主に平戸・長崎で行われ、銀が輸出された。</p> <p>②鉄砲の伝来 ・築城法が山城から平城に変化した。 ・一騎打ちの戦法から、足軽鉄砲隊の集団戦法に変化した。</p> <p>③キリスト教の伝来の南蛮貿易 ・ザビエルが鹿児島に来航したことは必ず暗記させること。 ・キリシタン大名の大村氏は長崎をカトリック教会に寄付した。 ・天正遣欧使節は、ヨーロッパを訪問した初めての日本人である。</p> <p>② 安土・桃山時代</p> <p>○織田信長 ・テキストの地図は目を通しておくこと。 ・徳川家康と同盟を結び、互いに背後を固めた。 ・長篠の戦いは重要なので目を通させること。 ・信長は足軽鉄砲隊をうまく活用して戦いに勝利した。 ・室町幕府の最後の将軍は、足利義昭である。 ・関所では関銭をとり、物資の輸送・軍隊の移動をさまたげた。 ・信長は貿易の利益や寺院勢力のおさえこみの為、キリスト教を保護した。</p> <p>○豊臣秀吉 ・明智光秀を倒すことで、秀吉は信長の後継者となった。 ・明智光秀は「三日天下」であった。 ・秀吉は、大阪の石山本願寺の跡地に大阪城を築いた。 ・朝廷の権威を利用するために、関白・太政大臣になった。 ・検地の資料は重要なので必ず目を通しておくこと。 ・検地刀狩令により、身分制度の基礎が固まった。 ・秀吉は宣教師を国外に追放し、キリスト教を禁止した。 ・太閤検地により、荘園制は完全になくなった。 ・秀吉は貿易を奨励し、外国船の来航を歓迎したので禁教は徹底しなかった。 ・朝鮮出兵は文禄の役、慶長の役の2度行われた。 →日本軍は朝鮮の亀甲船に悩まされる。</p> <p>発展学習</p> <p>① 安土・桃山時代の文化(桃山文化)</p> <p>・桃山文化は大名の大商人の気風をうつし豪華で雄大である特色をもつ。 ・姫路城は「白鷺城」ともいわれ、世界遺産である。 ・千利休により茶道が広まり、茶碗も多く作られるようになる。 (楽焼・織部焼・有田焼・萩焼・薩摩焼など) ・南蛮人が伝えた活版印刷術により「イソップ物語」「平家物語」などがローマ字で出版された。 ・出雲の阿国は出雲大社(島根県)の巫女だったといわれている。</p>

8

江戸幕府の成立と鎖国—江戸時代(1)—

▼指導ページ P 68 ~ 77 ▼

指導のねらい ★江戸時代確立期の政治や外交の流れについて学習する。
★江戸時代の身分制度と民衆の暮らしについて理解する。

重要事項の確認	補足知識・留意事項など
<p>1 江戸時代 【基本1】</p> <p>(1) 江戸時代(1603年～1867年) 豊臣秀吉の死後、天下の実権を握った徳川家康が江戸(東京都)に幕府を開く</p> <p>(2) 徳川家康の政治</p> <p>①戦国大名、徳川家康の誕生 三河国(愛知県)の小大名の松平氏の家へ出生→今川氏や織田氏の人質となった→桶狭間の戦いののちに独立→織田信長や豊臣秀吉の天下統一に協力</p> <p>②関ヶ原の戦い(1600年) 豊臣秀吉の天下統一(1590年)後、関東を領国とする最大の実力者→秀吉死去(1598年)→豊臣家を守る→石田三成は家康に対立→関ヶ原の戦い[岐阜県](1600年) = 「天下分け目の戦い」</p> <p>③江戸幕府の成立(1603年) 家康は征夷大将軍となり、江戸幕府を開く →2年後、徳川秀忠に将軍職をゆずる</p> <p>④大阪冬の陣(1614年)・夏の陣(1615年) 大阪城にあった豊臣秀頼と淀君は次第に徳川家と対立を深める→大御所の家康が2度にわたり大阪城を攻める→豊臣家滅亡→翌年、家康死去→死後、日光東照宮(栃木県)にまつられる</p> <p>2 江戸幕府のしくみ 【基本1】</p> <p>(1) 江戸幕府のしくみ</p> <p>①幕府の政治→老中(将軍を助ける役目)・大老(非常時の最高職)</p> <p>②幕藩体制の確立→藩=大名が支配した土地 天領=幕府の領地(全国に約4分の1)</p> <p>(2) 大名の種類</p> <p>①親藩…徳川家の親類 御三家…水戸藩・尾張藩・紀伊藩 ②譜代大名…関ヶ原の戦い以前の徳川家に仕えていた大名 ③外様大名…関ヶ原の戦い以後の徳川家の家来</p> <p>(3) 江戸幕府の大名統制</p> <p>①武家諸法度(1615年) 2代将軍徳川秀忠のとき制定→違反した大名には厳しい処分</p> <p>②参勤交代(1635年) 3代将軍徳川家光のとき追加 →大名は1年おきに江戸と領地を交代で住む(大名の妻子は人質として江戸に置く)</p> <p>③外様大名の統制…江戸から遠隔地を領有→参勤交代の旅費負担が甚大→経済苦</p> <p>④朝廷の統制…京都所司代による監視、禁中並公家諸法度による行動規制</p> <p>3 身分制度と民衆の暮らし 【基本1】</p> <p>(1) 江戸時代の身分制度 「武士」が「百姓[農民]」や「町人[職人・商人]」を支配する</p> <p>(2) 武士の暮らし…苗字帯刀、切捨御免の特権 ※幕府の武士…旗本(将軍に直接会える)・御家人(将軍に直接会えない)</p> <p>(3) 百姓の暮らし ・五人組…五戸の農家をまとめて監視させる→連帯責任 ・慶安の御触書…徳川家光のとき制定される</p> <p>(4) 町人の暮らし→生活はわりあい自由</p> <p>(5) 身分上きびしく差別された人々…職業や住居できびしい差別を受ける</p> <p>4 江戸時代の外交 【基本1】</p> <p>(1) 徳川家康の外交</p> <p>①朱印船貿易…朱印状は海外に渡る許可証 ※日本町…東南アジアにできた日本人の住む町 ※山田長政…シャム(タイ)で活躍</p> <p>②朝鮮との国交回復 朝鮮通信使…将軍の代わりごとに来日する →対馬藩の宋氏の協力で朝鮮と国交が回復</p> <p>③家康を支えた外国人 ウィリアム=アダムス(三浦按針)、ヤン=ヨーステン(耶揚子)</p> <p>(2) 鎖国への歩み</p> <p>①鎖国とは…キリスト教の制限を強化→限られた国とのみ外交関係を持つ</p> <p>②1637年 島原・天草一揆…天草四郎が中心 キリスト教の取り締まり…踏絵・寺請制度</p> <p>③鎖国の完成 ポルトガル船の来航禁止とともに鎖国が完成 ・オランダ…長崎の出島で貿易 ・中国(清)…長崎の唐人屋敷で貿易 ・朝鮮…対馬藩(宗氏)が朝鮮の釜山で貿易</p> <p>(3) 日本の周辺地域の地域との関係</p> <p>①琉球…薩摩藩が支配(1609年以降)、中国と貿易を続ける ②蝦夷地…現在の北海道、アイヌ民族が居住、松前藩がアイヌとの交易を独占</p>	<p>1 江戸時代</p> <p>○徳川家康 ・関ヶ原の戦いは「天下分け目の戦い」と呼ばれ、現在の岐阜県で起こったことは重要。 ・信長・秀吉・家康、それぞれのホトトギスの句を比べさせ三人の性格を理解させよう。</p> <p>○江戸幕府の成立 ・家康の支配確立のため、二度大阪城を攻め豊臣氏を滅ぼした。 ・家康は死後、日光東照宮にまつられたことも確認させる。</p> <p>2 江戸幕府のしくみ</p> <p>○幕府の政治…組織図は資料で確認させておくこと。 ・寺社奉行・勘定奉行・町奉行をまとめて三奉行という。 ・幕府の要職については、親藩・譜代大名である。</p> <p>○幕藩体制の確立 ・幕藩体制とは、幕府を中心に将軍と大名の強い力で土地と人民を支配した制度である。</p> <p>○江戸幕府の大名統制 ・外様大名は元々、秀吉の家臣が多く、石高も大きかった。 ・参勤交代制度は三代将軍家光のときに確立した。</p> <p>3 身分制度と民衆の暮らし</p> <p>○武士の生活…城下町に住み、年貢米で生活した。 ・将軍の直属の家臣として、旗本・御家人がいた。旗本は将軍に会うことができ、御家人は将軍に会うことができなかった。</p> <p>○天皇・貴族の身分…京都所司代は老中につぐ重要な職である。</p> <p>○百姓[農民]の暮らし…慶安の御触書の資料は重要。 ・農民は全人口の約85%いて年貢を納め、武士の生活を支えた。</p> <p>○町人[職人・商人]の暮らし…大工町・鍛冶町などの職業別に住む者も多かった。</p> <p>○その他の身分 ・えた・ひにんなどの身分があり、差別を受けていた。 ・洩染一揆は1855年に岡山藩でおこる。えたの人々に「衣類は無紋・藍染・洩染のものに限る」などの差別をしたことが原因。</p> <p>4 江戸時代の外交</p> <p>○徳川家康の外交 ・家康は貿易の利益を求め、平和外交を行った。 ・イギリス・オランダは平戸に商館を設け交易した。</p> <p>○朱印船貿易…山田長政はタイのアユタヤで活躍した。</p> <p>○鎖国への歩み ・オランダが、スペイン・ポルトガルが日本を領土化する狙いがある、と告げたことも鎖国の理由の一つである。 ・「踏絵」はキリストやマリアの像を踏ませた。資料は重要。</p> <p>○鎖国の完成とその後の外交 ・オランダ…商館を長崎の出島にうつす。出島は埋立地で現在は三方が埋め立てられている。 ・中国(清)…正式な国交はなかったが、長崎の唐人屋敷で貿易が行われた。</p> <p>○江戸時代の琉球と蝦夷地 ・琉球…首里城の資料は確認させる。 ・蝦夷地…アイヌの人々は狩りや漁をして生活していた。</p> <p>発展学習</p> <p>1 江戸武士の学問 世の中が平和になる→政治家としての能力が必要に→幕府の学問所で身分の上下を重んじる朱子学の講義</p>

9

都市の発達と幕府の政治改革—江戸時代(2)—

▼指導ページ P 78 ~ 87 ▼

指導のねらい ★江戸時代改革期での幕府の政治改革の内容について学習する。
★江戸時代の産業や都市の発達と町人の文化について理解する。

重要事項の確認	補足知識・留意事項など
<p>① 産業の発達 【基本1】</p> <p>(1) 農業などの発達…耕地は江戸中期に、秀吉の頃の2倍 ・肥料…干鰯, 油かす ・特産物…紅花(出羽), 藍(阿波) ・理論家…宮崎安貞(農業全書), 二宮尊徳</p> <p>(2) 工業などの発達=工場制手工業(マニファクチュア) →農民・職人を工場に集めて生産</p> <p>(3) 商業の発達 ・大商人…越後屋(「現金掛け値なし」)→三井高利 ・貨幣…金・銀・銭→両替商(現在の銀行)が発達</p> <p>(4) 交通の発達</p> <p>①海上交通の発達 ・航路(ア)東廻り航路(日本海側～江戸)と西廻り航路(日本海～大阪), 河村瑞賢が整備 (イ)大阪～江戸…菱垣廻船, 樽廻船 (ウ)蝦夷地…北前船</p> <p>②陸上交通の発達 ・五街道…日本橋が起点 大名行列・飛脚が通る 宿場町が発展 ・関所…箱根や新居など 「入鉄砲に出女」</p> <p>② 都市の発達と民衆 【基本1】</p> <p>(1) 都市の発達 ・三都→大阪(「天下の台所」, 蔵屋敷がたつ) 江戸(「将軍のおひざもと」) 京都(「天子様のおひざもと」)</p> <p>(2) 江戸時代の民衆 ・百姓一揆…農民が年貢の引き下げを求める ・打ちこわし…町人が米屋・大商人をおそう</p> <p>③ 幕府の政治改革 【基本1】</p> <p>(1) 徳川綱吉の政治 ・武士に儒学を学ぶことをすすめる ・貨幣の質を落とす ・生類憐みの令を出す</p> <p>(2) 新井白石と正徳の治 ・貨幣の質を戻す ・生類憐みの令を廃止</p> <p>(3) 徳川吉宗と享保の改革(1716年～)…「米将軍」 ・新田開発 ・上米の制→大名に米を出させる ・年貢の率を五公五民にする ・公事方御定書→裁判の公正化のため ・目安箱→庶民の意見を聞くために</p> <p>(4) 田沼意次の政治 ・長崎貿易をさかんにする ・株仲間(商人の組合)を積極的に認める</p> <p>(5) 松平定信と寛政の改革(1787年～)</p> <p>①寛政異学の禁…朱子学以外の学問を禁止 ②困米の制…米をたくわえさせる ③棄捐令…武士の借金を帳消しにする</p> <p>(6) 大塩平八郎の乱(1837年)…幕府の元役人が反乱を起こす →幕府の権威の低下をしめす結果に</p> <p>(6) 水野忠邦と天保の改革(1841年～) ・1837年大塩平八郎の乱後の改革 ・上知令…江戸・大阪周辺の土地を天領にする ・株仲間の解散・出かせぎ農民を農村に帰す</p> <p>(8) 改革の失敗と江戸幕府のおとろえ 度重なる改革の失敗, 百姓一揆や打ちこわしの多発</p> <p>発展学習</p> <p>① 江戸時代の文化(元禄文化・化政文化)</p> <p>(1) 元禄文化(江戸時代前期の文化) →徳川綱吉のころ 上方中心の町人文化</p> <p>①文学…井原西鶴(小説家), 近松門左衛門(脚本家) 松尾芭蕉(俳諧「奥の細道」)</p> <p>②絵画…菱川師宣(浮世絵)</p> <p>(2) 化政文化(江戸時代後期の文化) →徳川家斉のころ 江戸中心の町人文化</p> <p>①文学…十返舎一九(東海道中膝栗毛), 滝沢馬琴(小説)与謝蕪村, 小林一茶</p> <p>②絵画…歌川広重(東海道五十三次), 喜多川歌麿(美人画)葛飾北斎(富嶽三十六景)</p> <p>③狂歌・川柳…世の中を風刺, 庶民の間で流行</p>	<p>① 産業の発達</p> <p>○農業などの発達 ・新しい農具として, 千歯こき・とうみ・備中ぐわが用いられた事で重要。さし絵で確認させること。 ・干鰯は, 特に綿の栽培に適していた。</p> <p>○工業などの発達 ・問屋制家内工業から工場制手工業へと発達した。 ※問屋制家内工業→原料・道具を農民に貸し, 製品を引き取る。 ※工場制手工業→労働者を工場に集め, 分業と協業で生産する。</p> <p>○商業の発達 ・越後屋は現在の三越デパートのもと。 ・両替商は貨幣の交換・預金・貸付などを行った。</p> <p>○交通の発達 ・海上交通の発達 蔵屋敷は重要な語句なので内容をきちんと理解させる。 東・西廻り航路は東北や北陸の米を, 江戸や大阪に運んだ。 ・陸上交通の発達 五街道…東海道・中山道・甲州街道・日光街道・奥州街道。 通信機関として手紙などを運ぶ飛脚が発達した。</p> <p>② 都市の発達と民衆</p> <p>○百姓一揆と打ちこわし ・百姓一揆は農民が年貢の減免などを求めたもので打ちこわしは都市の貧民が起こしたもの。 ・一揆の署名で首謀者が分からないように円形に書かれたものを「からかさ連判状」という。</p> <p>③ 幕府の政治改革</p> <p>○徳川綱吉の政治…生類憐みの令のため「犬公方」と呼ばれた。 ・朱子学を幕府の官学にした。湯島に聖堂をたてる。</p> <p>○正徳の治…長崎貿易の制限なども行われた。</p> <p>○徳川吉宗と享保の改革…内容をきちんと分けて記憶させること。 ・上米の制では, 大名に米を納めさせるかわりに参勤交代で江戸にいる期間を半年にした。 ・漢訳洋書の輸入を許可して現実生活に役立つ学問を奨励した。 ・年貢の率を四公六民を五公五民にした。 ・敗政は一時立ち直ったが, ききんがおこったり年貢が重くなったので, 百姓一揆は増えた。P83のグラフで確認させる。</p> <p>○田沼意次の政治…商人と結びついたわいる政治を行う。 ・印旛沼などの開拓事業を進め, 蝦夷地の開拓を計画した。 ・銅や海産物の中国への輸出を奨励した。</p> <p>○松平定信と寛政の改革 ・資料中の狂歌は重要なので, 内容を理解させること。 ・寛政の改革は厳しすぎた為に, 6年間で失敗した。</p> <p>○水野忠邦と天保の改革 ・大塩平八郎は元町奉行の役人であり, 大阪の乱を起こす。 ・この改革は幕府本位であり, 非常に厳しかったので2年余りで失敗に終わる。</p> <p>発展学習</p> <p>① 江戸時代の文化(元禄文化・化政文化)</p> <p>○元禄文化(江戸時代前期の文化)</p> <p>①文学 ・井原西鶴は浮世絵草子の作家。「日本永代蔵」など。 ・近松門左衛門は人形浄瑠璃の脚本家。「曾根崎心中」など。 ・松尾芭蕉は俳諧を確立させる。「奥の細道」は重要。 資料の俳句は目を通しておくこと。</p> <p>②絵画…菱川師宣の「見返り美人」も確認しておくこと。</p> <p>○化政文化(江戸時代後期の文化)</p> <p>①文学 ・十返舎一九は小説家。「東海道中膝栗毛」はこっけい本である。 ・滝沢馬琴は「南総里見八犬伝」。また小林一茶の俳句に目を通しておくこと。</p> <p>②絵画…浮世絵が発達する。歌川広重の「東海道五十三次」葛飾北斎の「富嶽三十六景」は資料として大切。</p> <p>③狂歌・川柳 ・狂歌は和歌の形式, 川柳は俳諧の形式である。 ・資料を読んで, 何を風刺しているかも確認させること。</p>

指導のねらい ★第6回～第9回までの重要事項を再確認し、徹底する。

重要事項の確認	補足知識・留意事項など
<p>① 第6回～第9回の復習</p> <p>(1) キーワードから確認する</p> <p>A 鎌倉幕府をたおす, 天皇・公家中心の新しい政治→後醍醐天皇 B 南北朝の対立を終わらせる, 室町幕府の全盛期→足利義満 C 室町幕府の将軍, あとつぎ争いから京都で大乱→足利義政 D 甲斐国の戦国大名, 上杉謙信と何度も戦う→武田信玄 E 天下統一をめざす, 明智光秀, 本能寺で自害→織田信長 F Eの後継者, 天下を統一する→豊臣秀吉 G 天下統一に協力, 天下分け目の戦いに勝利, 江戸幕府→徳川家康 H Gの孫, 鎖国を完成させる→徳川家光 I 江戸幕府の8代将軍, 政治改革→徳川吉宗 J 株仲間を積極的にみとめる, 経済をさかんにする→田沼意次 K Jのあとに幕政を担当, 政治改革→松平定信 L もとは幕府の役人, 大阪で反乱を起こす→大塩平八郎 M 1841年から幕政を担当, 政治改革→水野忠邦</p> <p>(2) 資料の読み取り問題</p> <p>①「鳴くまで待とう」→徳川家康の性格と特徴をよんだ句 ②「白河」「田沼いしき」→田沼時代のあとの幕政担当者→松平定信 ③「都は野辺の」→応仁の乱で焼け野原となった京都についてよんだ歌 ④「にせの天皇の命令」「急使の早馬」→建武の新政の際の混乱のようす ⑤「楽市」「諸座の特権」「一切免除」→織田信長の楽市楽座の命令 ⑥「けんか」「双方」「処罰する」→『信玄家法』とよばれる武田氏の分国法 ⑦「大名」「参勤」→参勤交代の制度を追加した徳川家光による武家諸法度 ⑧「農民」「刀, やり, 鉄砲」「禁止」→豊臣秀吉の刀狩令 ⑨「准三后源道義」「国書を大明皇帝陛下に」→足利義満が明に送った国書</p> <p>(4) 足利義満→金閣 足利義政→銀閣</p> <p>(5) 織田信長が武田勝頼を破った戦い→長篠の戦い</p> <p>(6) アは織田信長の政策, イは比叡山延暦寺ではなく石山本願寺, ウは文禄・慶長の役</p> <p>② 第6回～第9回までの外交関係</p> <p>(3) 日本と明がおたがいに勘合(わり札)持ち合い, ぴたりと合えば→正式な貿易船</p> <p>(4)② アは「一騎討ち」→「集団」 イは「山の上」→「平地」 エは「堺」などで鉄砲の生産</p> <p>(7)① 西日本の大名を主力とした朝鮮出兵→朝鮮の職人→西日本で陶磁器がさかんに</p>	<p>① 第6回～第9回の復習</p> <p>A 後醍醐天皇 ○鎌倉幕府の滅亡 ・後醍醐天皇は(1333年)に鎌倉幕府を倒す(後醍醐天皇は一度倒幕に失敗し, 隠岐に流された。) ・足利尊氏・楠木正成・新田義貞らの協力 ○建武の新政(1334年～1336年) ・後醍醐天皇の天皇・貴族を中心とした政治 ・武士に恩賞が不十分, 武士と対立</p> <p>C 足利義政 ○応仁の乱(1467年～77年)と室町幕府のおとろえ ・足利義政の跡継ぎをめぐる戦いが起こる ・この後, 下剋上の戦国時代となる</p> <p>D 武田信玄 ・信濃(長野), 駿河(静岡)に領土を広げる。「信玄家法」(1547年), 釜無川に信玄堤(山梨) ・信濃の川中島で長尾景虎(上杉謙信)と戦う。「風林火山」の旗印</p> <p>G 徳川家康 ・1600年, 関ヶ原の戦い(岐阜県)で石田三成を破る 天下分け目の戦い ・「鳴かぬなら鳴くまでまとうホトトギス」は徳川家康の性格を表したとされる句 ・1603年に征夷大将軍となり, 江戸幕府を開く ・1614年・15年 大阪冬の陣・夏の陣で豊臣家を滅ぼす</p> <p>② 第6回～第9回までの外交関係</p> <p>①日明貿易 ・中国では「明」, 朝鮮半島では「朝鮮」が建国される ・明や朝鮮沿岸で倭寇という海賊が見られる ・倭寇の取り締まりの為, 勘合を用いた貿易を行う = 勘合貿易</p> <p>②南蛮貿易 ・南蛮文化の伝来 大航海時代…コロンブスなど航海者が船で世界をめぐり渡る 南蛮文化…スペイン・ポルトガルの文化 ・鉄砲の伝来 1543年, 種子島でポルトガル人が伝える→その後, 堺などで生産される 鉄砲伝来の影響→集団戦法・平地に天守閣を持つ城 ・キリスト教の伝来と南蛮貿易 1549年, フランシスコ・ザビエルが鹿児島に来航してキリスト教を伝える キリシタン大名の出現, 少年使節の派遣 ※貿易は主に平戸・長崎で行われ, 銀が輸出された。</p> <p>③朱印船貿易 朱印状は海外に渡る許可証 ※日本町…東南アジアにできた日本人の住む町 ※山田長政…シャム(タイ)で活躍</p> <p>④鎖国の完成 ・鎖国へ歩み 1637年 島原・天草一揆…天草四郎が中心 キリスト教の取り締まり…踏絵・寺請制度 ・鎖国の完成とその後の外交 ポルトガル船の来航禁止とともに鎖国が完成 ①オランダ…長崎の出島で貿易 ②中国(清)…長崎の唐人屋敷で貿易 ③朝鮮…対馬藩(宗氏)が朝鮮の釜山で貿易</p>

指導のねらい ★幕末期における外国船の来航と幕府の対応について学習する。
★攘夷の失敗から倒幕までの流れと戊辰戦争について理解する。

重要事項の確認	補足知識・留意事項など
<p>① 鎖国から開国へ 【基本1】</p> <p>(1) 産業革命と市場の拡大 工場制手工業から工場制機械工業へ、蒸気機関による大量生産</p> <p>(2) ロシア船の来航 1792年 根室にラスクマンが来航</p> <p>(3) 北方の探検 近藤重蔵、間宮林蔵、伊能忠敬</p> <p>(4) 異国船〔外国船〕打払令(1825年) ・ 1808年 フェートン号事件 →その後、異国船〔外国船〕打払令を出す</p> <p>(5) モリソン号事件 蛮社の獄…鎖国を批判した渡辺崋山・高野長英を処罰</p> <p>(6) ペリーの来航と開国 ①ペリーの来航 1853年浦賀に来航 ②日米和親条約 ・ 下田・函館の2港の開港 ・ アメリカは捕鯨の補給地、中国(清)との貿易のために日本を開国させようとした</p> <p>(7) ハリスの来日と通商条約 ①総領事ハリスの来日 大老井伊直弼とハリスの間で条約交渉が始まる ②日米修好通商条約 函館・神奈川・長崎・新潟・兵庫の開港 ③不平等条約 関税自主権がない・領事裁判権(治外法権)を認める</p> <p>(8) 外国との貿易と社会の変化 横浜(神奈川から変更)を中心に生糸や茶の輸出、最大の貿易相手国はイギリス 安政の大獄と桜田門外の変</p> <p>(9) 安政の大獄と桜田門外の変 ・ 安政の大獄…幕府を批判した吉田松陰を処罰 ・ 桜田門外の変…井伊直弼が暗殺される</p> <p>(10) 世直し一揆と「ええじゃないか」 外国との金や銀の交換比率の違い→日本から金が大量流出・品不足→物価上昇</p> <p>② 江戸幕府の滅亡 【基本1】</p> <p>(1) 尊王攘夷運動の高まり ・ 政治の中心を幕府から天皇に戻そうとする = 尊王論 ・ 外国人を打ちはらう = 攘夷論</p> <p>(2) 攘夷の失敗 ①生麦事件と薩英戦争 イギリス人の殺害事件→イギリスとの戦争→薩摩藩敗退 ②長州藩と下関砲撃事件 関門海峡を通る外国艦隊を砲撃→砲台占領→長州藩敗退</p> <p>(3) 攘夷から倒幕へ ①薩摩藩・長州藩の倒幕運動 外国に対抗できる強い国家をつくる→外国と手を組む→幕府を倒す→薩摩藩はイギリスと協力、長州藩は高杉晋作が奇兵隊を組織 ②薩長同盟 薩摩藩と長州藩の関係は非常に悪い→土佐藩出身の坂本龍馬らの仲立ち→同盟成立</p> <p>(4) 大政奉還 薩長の動静を警戒→京都の警備を強化(会津藩や新選組)→15代将軍徳川慶喜が二条城で政権を朝廷に返上する考えを発表 理由 幕府と薩長との戦いで国力が弱体化すると考えたため。 ※約260年間続いた江戸幕府が滅亡(約700年間の武士の世も終わる)</p> <p>(5) 戊辰戦争 旧幕府と新政府の戦い ①鳥羽・伏見の戦い 大政奉還→王政復古の号令→薩長中心の新政府 ②江戸城の開城 旧幕府軍の勝海舟と新政府軍の西郷隆盛の会談→無血開城 ③会津戦争 会津藩(京都守護職)は新政府に抵抗→白虎隊(少年兵)の悲劇 ④函館五稜郭の戦い 旧幕府残党(榎本武揚や土方歳三)が最後まで抵抗→1869年降伏</p>	<p>① 鎖国から開国へ</p> <p>○外国船の来航 ・ ロシア船の来航…1804年レザノフは長崎に来航。 ・ 北方の探検と鎖国の批判 間宮林蔵は千島・樺太の探検を行い、樺太が島であると確認。 フェートン号事件はイギリスの軍艦が長崎に侵入した事件である。この後の1825年に外国船打払令を出した。 ・ ペリーの来航と開国 ・ ペリーは4隻の軍艦で来航し開国をせまった。 ・ 浦賀は神奈川県にあり、三浦半島の東京湾の入り口に位置している。</p> <p>○日米和親条約〔神奈川条約〕 同じ内容の条約をイギリス・ロシア・オランダと結んだ。</p> <p>○日米修好通商条約〔安政の五か国条約(アメリカ・イギリス・フランス・ロシア・オランダ)〕 ・ 井伊直弼は朝廷の許可を得ずに調印した。 ・ 日本にとって不平等の内容は必ずおさえておくこと。</p> <p>○開国後の社会のようす ・ 開国後、輸出が輸入を上回り、物資が不足したため物価は上昇。 ・ 日本の金は安く、外国の銀と交換されたことから、貨幣の質が低下し物価上昇の原因となった。 ・ 日米和親条約→日米通商航海条約→安政の大獄→桜田門外の変までの流れをきちんと確認させること。</p> <p>② 江戸幕府の滅亡</p> <p>○尊王攘夷運動の高まり ・ 吉田松陰は長州に松下村塾を開き、尊王攘夷運動を広めた。 ・ 生麦は横浜の地名である。藩主の行列に下馬しなかった外国人を殺害した。</p> <p>○攘夷から倒幕へ ・ 薩摩藩・長州藩は攘夷が不可能であることを知って倒幕運動に変化することになった。 ・ この頃、世直し一揆が各地で多発したことも確認させておく。</p> <p>○大政奉還 ・ 尊王攘夷運動→倒幕運動 = 薩長同盟→大政奉還→王政復古の号令 →戊辰戦争までの流れを確認させること。 ・ 五稜郭は函館(北海道)にある。 ・ 幕末の人物、関係性も確認させること。</p> <p>発展学習</p> <p>① 江戸時代の教育</p> <p>(1) 武士の教育 幕府や藩は家臣の教育に力を注ぐ→学問所や藩校で学ぶ</p> <p>(2) 庶民の教育 ・ 私塾 シーボルトの鳴滝塾・緒方洪庵の適塾・吉田松陰の松下村塾 ・ 寺子屋「読み・書き・そろばん」→江戸時代の識字率の高さ</p>

指導のねらい ★明治新政府による中央集権体制の確立とさまざまな政策について学習する。
★自由民権運動への対応から帝国議会の始まりまでの流れについて理解する。

重要事項の確認	補足知識・留意事項など
<p>① 明治時代 【基本1】</p> <p>(1) 明治時代 江戸を東京に改名, 明治天皇も江戸城に入り皇居に, 東京遷都</p> <p>(2) 明治維新と文明開化 ・幕末から明治にかけての政治や社会の変化= 明治維新 ・西洋文化が入ってきて人々のくらしの変化= 文明開化</p> <p>② 明治維新 【基本1】</p> <p>(1) 新政府の方針 ・ 1868年五か条の御誓文…天皇が神に誓うという形 ・ 五榜の掲示…民衆向けの新政府の方針</p> <p>(2) 中央集権体制の確立 ・ 1869年版籍奉還…大名の土地・人民を政府に帰す ・ 1871年廃藩置県…藩をなくし, 全国に府・県を置く</p> <p>(3) 古い身分制度の廃止 ① 華族…(旧大名・公家) ② 士族…(旧武士→平民と同じ身分) ③ 平民…(旧百姓・町人→名字をもつ)</p> <p>(4) 新政府のさまざまな政策 ① 富国強兵・殖産興業 富国強兵=国を豊かにして強い軍隊を持つこと 殖産興業=産業をさかんにすること ② 徴兵令(1873年)…満20歳以上の男子に兵役 ③ 地租改正(1873年)…地主に地券を発行 →地価の3%を現金で収める ④ 官営模範工場の設立 富岡製糸場(1872年)…群馬県の官営工場</p> <p>③ 文明開化 【基本1】</p> <p>(1) 交通・通信の発達 鉄道(新橋~横浜)・郵便制度(前島密)</p> <p>(2) 教育の普及…学制(義務教育のしくみ)</p> <p>(3) 文明開化を支えた外国人 モース(大森貝塚の発見), クラーク(札幌農学校の教頭)など</p> <p>④ 立憲国家への道 【基本1】</p> <p>(1) 征韓論と西南戦争 ① 士族の不满と征韓論 ・ 農民の不满…高い地租・徴兵令・学制など ・ 士族の不满…廃刀令・徴兵令など ・ 征韓論…鎖国中の朝鮮を武力で開国させる考え →西郷隆盛・板垣退助が唱えるが反対にあい, 政府を去る ② 西南戦争 1877年に西郷隆盛が九州で起こすが失敗</p> <p>(2) 自由民権運動 ① 民撰議院設立建白書 ・ 板垣退助…1874年民撰議院設立建白書を政府に提出 ・ 目的…藩閥政府をなくす 選挙による議会 ② 国会開設の勅諭 政府は1890年に議会の開くことを約束</p> <p>(3) 政党の結成 ① 自由党と立憲改進黨 板垣退助=自民党 大隈重信=立憲改進黨 ② 秩父事件 1884年国民党を結成→役所や金貸しを襲撃した</p> <p>(4) 憲法の制定と議会の始まり ① 内閣制度の成立 憲法制定の準備…伊藤博文が憲法を研究 →内閣制度(伊藤博文が初代内閣総理大臣) ② 大日本帝国憲法の発布…1889年2月11日 =ドイツ(プロシア)の憲法を参考→皇帝の力が強い ・ 大日本帝国憲法の特徴 天皇が主権者, 国民は臣民 ・ 教育勅語…天皇に対する忠誠を教える ③ 初の選挙と帝国議会 ・ 1890年, 第1回帝国議会 衆議院と貴族院 ・ 衆議院の選挙資格 直接国税15円以上おさめる満25歳以上の男子 (全人口の約1.1%にすぎなかった)</p>	<p>② 明治維新</p> <p>○新政府の方針 ・ 五か条の御誓文は新政府の方針を示したもので, 世論を尊重し先進国の文明を吸収することなどを示した。 ・ 五榜の掲示はキリスト教を禁止するなど, 江戸幕府の政策を受けつぐものだった。</p> <p>○中央集権体制の確立 ・ 版籍奉還…藩ごとの封建体制をやめ, 全国統一を目指した。 ・ 廃藩置県…中央から府知事・県令が派遣された。</p> <p>○古い身分制度の廃止 新政府は江戸時代の武士や百姓・町人の身分制度と武士の特権をなくした。しかし, 実際には差別は依然として残った。</p> <p>○富国強兵・殖産興業 ・ 徴兵令…これにより洋式の近代的な常備軍が誕生した。 ・ 地租改正…政府の税収入は安定することになったが農民の負担は減らなかった。地券の資料は確認させること。 ・ 富岡製糸場…フランスの機械と技術が導入された。</p> <p>③ 文明開化</p> <p>○文明開化 ・ 洋風建築, ガス灯, 洋服などの衣食住が変化した。 ・ 太陰暦をやめて太陽暦を採用することになった。</p> <p>○新しい生活・文化 ・ 交通・通信の発達 鉄道はイギリスから資金と技術を導入した。 それ以外に1869年には最初の電信が開通した。 ・ 教育の発達 学制で全国に小学校を設立した。 福沢諭吉の「学問のすゝめ」についても必ず確認させること。 ・ 外国人の来日 ・ 「少年よ, 大志を抱け。」はクラークの言葉。 ・ 教育熱が高まり, いろいろな学校が作られた。創立者を確認させること。</p> <p>④ 立憲国家への道</p> <p>○高まる新政府への不満 士族は特権を奪われ, 新政府は藩閥政治であり専制的な政治を行っていた。</p> <p>○征韓論…大久保利通らの反対で征韓論は敗れた。</p> <p>○士族の反乱と西南戦争 西南戦争の終結により武力による士族の反抗は終わり, 言論による政府批判(→自由民権運動)が強まった。</p> <p>○自由民権運動 ・ 武力から言論の世の中へ 憲法の制定, 国会の開設を要求した。 ・ 自由民権運動の高まり 板垣退助は土佐で立志社, 後に大阪で国会期成同盟をつくり, 自由民権運動は全国運動となる。 自由党はフランスの影響, 立憲改進黨はイギリスの影響をそれぞれ受けた。 ・ 秩父事件 暴動は政府が送った軍隊により鎮圧された。この後, 政府の取り締まりが強化され, 自由民権運動は一時おとろえた。</p> <p>○憲法の制定と議会の始まり ・ 憲法制度の準備 天皇の諮問機関として枢密院を設けた。 ・ 大日本帝国憲法の制定 2月11日は現在, 建国記念日である。 明治天皇が国民に授ける形で発布された。(欽定憲法) 日本はアジアで最初の立憲君主国となった。 ・ 大日本帝国憲法の特徴 天皇は統治権・統帥権など絶対的な権力を持っていた。 国民は憲法の内容を知らずに祝賀会を行った。 ・ 議会の始まり 貴族院は貴族・華族の代表者で天皇が任命した。 最初の選挙では自由民権派の民党が過半数を獲得した。</p> <p>発展学習</p> <p>① 北海道と沖縄</p> <p>北海道 かつては蝦夷地, 開拓使という役所, 農業兼業の兵士である屯田兵</p> <p>沖縄県 かつては琉球王国〔薩摩藩に属す〕, 明治時代になって琉球藩に</p>

指導のねらい ★明治政府による不平等条約改正への取り組みについて学習する。
★日清・日露戦争のそれぞれの背景と講和条約について理解する。

重要事項の確認	補足知識・留意事項など
<p>① 不平等条約の改正 【基本1】</p> <p>(1) 岩倉使節団の欧米派遣 岩倉具視を全権大使とする使節団を欧米に派遣したが失敗</p> <p>(2) 明治初期の日本と周辺諸国との関係 【中国】1871年、日清修好条規[初の対等条約] 【朝鮮】江華島事件→1876年、日朝修好条規[日本にとって有利な不平等条約] 【ロシア】1875年、樺太・千島交換条約[樺太がロシア領、千島列島が日本領]</p> <p>(3) 欧化政策と鹿鳴館 欧化政策→条約改正を進めるため、日本人の生活を西洋化する 鹿鳴館→外国人を招いて、盛んにダンスパーティーが行われる</p> <p>(4) ノルマントン号事件 和歌山県沖でイギリス船が沈没し、日本人乗客が救助されなかった事件 →イギリス人船長は領事裁判権(治外法権)によって軽い罪ですんだ →日本国民の間には条約改正を強く求める声があがる</p> <p>(5) 条約改正の成功 ・治外法権の廃止…1894年、陸奥宗光、イギリス ・関税自主権の回復…1911年、小村寿太郎、アメリカ</p> <p>(6) 条約改正の成功の理由 ①大日本帝国憲法やその他の法律の制定、帝国議会の開設→近代国家の制度が整った ②日清・日露戦争に勝利し、朝鮮を植民地にした→日本の国力がみとめられた</p> <p>② 日清戦争 【基本1】</p> <p>(1) 日清戦争 ①日清関係の悪化と甲午農民戦争…朝鮮の開国→経済の混乱→朝鮮の東学党が反乱 ②日清戦争の開戦…反乱をおさえるという名目で、日本と清が朝鮮に出兵し衝突→日清戦争</p> <p>(2) 下関条約(1895年)…伊藤博文・陸奥宗光が代表 ・清は朝鮮の独立を認める ・日本は台湾・遼東半島、多額の賠償金を獲得</p> <p>(3) 日清戦争後の動き ①三国干渉…ロシアはドイツ・フランスとともに遼東半島を清に返させる ②日英同盟(1902年)…イギリスは日本を利用</p> <p>③ 日露戦争 【基本1】</p> <p>(1) 日露戦争(1904年) ①日露戦争の開戦…日本海軍がロシア艦隊を攻撃(遼東半島の旅順) ②戦争中の日本とロシア…戦争長期化→日本国民に増税→日本国民は戦争を支持 ※戦争に反対した人々…幸徳秋水(社会主義者)、内村鑑三(キリスト教徒)、与謝野晶子(女流歌人) ロシア国内で革命運動→戦争の継続が困難に</p> <p>③日本海海戦…日本の連合艦隊(東郷平八郎)がロシアのバルチック艦隊(世界最強)に圧勝</p> <p>(2) ポーツマス条約 ①戦争の終結…日本が優勢な中で戦争終結 ②ポーツマス条約(1905年)…小村寿太郎が代表 ※アメリカ大統領(セオドア・ルーズベルト)の仲立ち ・ロシアは韓国に対する日本の指導権を認める ・旅順・大連の租借権、南満州鉄道の権利を日本にゆずる ・北緯50度以南の樺太を日本の領土とする ※賠償金なし→不満の国民が日比谷焼きうち事件</p> <p>(3) 韓国併合(1910年)…伊藤博文が安重根に暗殺される ・朝鮮総督府をおいて植民地とする</p> <p>④ 産業の発展と社会の変化 【基本1】</p> <p>(1) 日本の産業革命…富国強兵・殖産興業の結果 ・第一次産業革命…日清戦争前後、<u>軽工業</u>中心 ・第二次産業革命…日露戦争前後、<u>重工業</u>中心 ※八幡製鉄所が1901年に操業開始</p> <p>(2) 労働問題と公害の発生 ・女工…長時間労働、安い賃金、不衛生な環境 ・足尾銅山鉍毒事件…田中正造が天皇に直訴</p> <p>(3) 教育の普及…義務教育(小学校)1900年に無料化、1907年に4年から6年に延長</p>	<p>① 不平等条約の改正</p> <p>○条約改正の交渉 ・欧米諸国から「日本はまだ近代的な法治国家ではない。」と指摘される。 ・使節団とともに留学生の津田梅子(当時8歳)がいた。</p> <p>○欧化政策 ・鹿鳴館…外国人を招いて舞踏会を開いた。 ・ノルマントン号事件は和歌山沖でイギリス船が沈没した際日本人乗客が救出されず全員死亡した事件。イギリス船長は軽い罪だった。</p> <p>○条約改正の成功 ・当時イギリスはロシアの南下政策に対抗するため、日本へ接近してきた。 ・条約改正が達成されたため、日本は国際社会で列強と対立の立場に立った。</p> <p>② 日清戦争</p> <p>○日本と清・朝鮮との関係 ・江華島事件…朝鮮の江華島付近で日本の軍艦が朝鮮に砲撃された事件。 ・日朝修好条規は朝鮮にとって不平等条約であった。</p> <p>○日清戦争…戦場は主に朝鮮国内であった。 ※なお、東学は西学(キリスト教)に反対する宗教の一種。</p> <p>○下関条約…遼東半島の位置は重要なので確認しておくこと。</p> <p>○日清戦争後の動き ・三国干渉…ロシアは日本の大陸進出を防ぐためにフランス・ドイツを誘った。 ・日英同盟…イギリスと日本はロシアに対して共通の利害関係を持っていた。</p> <p>③ 日露戦争</p> <p>○日露戦争 ・内村鑑三はキリスト教徒、与謝野晶子は歌人。 ・日本の海軍は日本海でバルチック艦隊を破った。</p> <p>○ポーツマス条約 ・ポーツマスはアメリカの都市。 ・賠償金を得られなかったことは重要なので確認しておく。</p> <p>○韓国併合…この後、韓国の学校では日本語が強制的に教えられ韓国の伝統や民族感情が無視された。</p> <p>④ 産業の発展と社会の変化</p> <p>○日本の産業革命 ・第一次産業革命…繊維工業を中心に工場制機械工業が発達。 ・第二次産業革命…軍事工業を中心に発達した。 ※八幡製鉄所はそのための製鉄業発展のために設立された官営工場。</p> <p>○労働問題と公害の発生 ・労働者は労働組合を作り、労働条件改善を求めて労働争議を起こした。 ・足尾銅山鉍毒事件は栃木県渡良瀬川に銅山の鉍毒が流出した事件 田中正造は衆議院議員であった。</p>
<p>発展学習</p> <p>① 明治時代の文化</p> <p>・医学…北里柴三郎、志賀潔、野口英世、鈴木梅太郎 ・美術…黒田清輝、岡倉天心、フェノロサ ・文学…夏目漱石、樋口一葉、坪内逍遙、二葉亭四迷、森鷗外、島崎藤村 ・音楽…滝廉太郎</p>	<p>発展学習</p> <p>① 明治時代の文化</p> <p>・北里柴三郎→破傷風血清療法、志賀潔→赤痢菌の発見 野口英世→黄熱病の研究 ・黒田清輝→「読書」、岡倉天心・フェノロサ→日本美術の復興 ・夏目漱石→「坊ちゃん」、樋口一葉→「たけくらべ」 ・滝廉太郎→「荒城の月」</p>

指導のねらい ★第一次世界大戦での世界から見た日本の立場について学習する。
★大正時代の政治の流れとさまざまな社会運動について理解する。

重要事項の確認	補足知識・留意事項など
<p>① 大正時代 【基本1】</p> <p>(1) 大正時代 1912年に明治天皇が崩御、大正天皇が即位し、天皇であった約15年間</p> <p>(2) 第一次世界大戦と大正デモクラシー ・明治の藩閥政治に対する、国民の運動。 ・吉野作造…民本主義(=普通選挙, 政党政治)</p> <p>② 第一次世界大戦 【基本1】</p> <p>(1) サラエボ事件 オーストリア皇太子夫妻がセルビア人青年に暗殺された事件</p> <p>(2) 第一次世界大戦の開戦 サラエボ事件→三国同盟と三国協商との間で開戦 ・新兵器…戦車・飛行機・潜水艦</p> <p>(3) 日本の参戦と二十一か条の要求 日本は日英同盟にもとづき連合国側にたつ →中国のドイツ軍基地を攻撃 日本は中国に二十一か条の要求を出す</p> <p>(4) ロシア革命 レーニンが中心、ソビエト社会主義共和国連邦の成立→日本はシベリア出兵</p> <p>(5) アメリカの参戦 開戦当初アメリカは中立を保つ→のちに連合国側で参戦</p> <p>(6) 大戦の終結と戦後の国際社会</p> <p>①ベルサイユ条約(1919年)…パリで講和会議 →日本は旧ドイツ領の南洋諸島、中国の山東省のドイツ権利をひきつぐ</p> <p>②国際連盟の発足…ウィルソン提案、本部はジュネーブ ※国際連盟…新渡戸稲造が事務局次長</p> <p>③三・一独立運動・五・四運動 ・朝鮮…三・一独立運動, 中国…五・四運動 ※インド…ガンディー, 非暴力・不服従の運動</p> <p>③ 大正時代の政治の流れ 【基本1】</p> <p>(1) 第一次護憲運動 →尾崎行雄を中心、藩閥政府をたおす運動</p> <p>(2) 第一次世界大戦中の内閣</p> <p>①大隈重信内閣…中国に二十一か条の要求を出す</p> <p>②寺内正毅内閣…シベリア出兵の準備→魚津(富山県)で米騒動</p> <p>③原敬内閣…本格的な政党内閣(外務大臣・陸軍大臣・海軍大臣以外は立憲政友会議員)・平民宰相として人気</p> <p>(3) 第二次護憲運動と普通選挙法</p> <p>①第二次護憲運動…選挙で選ばれていない貴族院出身の清浦奎吾内閣に批判</p> <p>②普通選挙法の実現…加藤高明(憲政会)が内閣を組織、治安維持法、普通選挙法(満25歳以上のすべての男子・全人口の約20%)</p> <p>④ 大正時代の社会と生活の変化 【基本1】</p> <p>(1) 大戦中の好景気 ・大戦景気と成金…大戦中は好景気→成金の出現</p> <p>(2) 関東大震災の発生…1923年9月1日に南関東をマグニチュード7.9の大地震がおそう</p> <p>(3) 大正時代のさまざまな運動</p> <p>①都市部の社会運動…地位や権利の向上→労働運動の始まり</p> <p>②農村部の社会運動…土地を持つ「地主」と土地を借りて小作料をはらう「小作農」 地位の安定や小作料の減額を要求→小作争議</p> <p>③女性運動…婦人参政権を求める運動 平塚雷鳥[らいてう], 市川房枝を中心に雑誌『青鞥』</p> <p>④全国水平社…江戸時代から差別されていた身分の人々は全国水平社創立大会を開く</p> <p>⑤社会主義運動…ロシア革命の影響で共産主義への関心も高まる</p> <p>(4) ラジオ放送の開始…1925年、情報が全国にすばやく伝わるようになる</p> <p>発展学習</p> <p>① 大正時代の文化</p> <p>モダン(現代的)スタイル →東京駅の駅舎(1914年) 大正時代の文学 ・白樺派…志賀直哉, 有島武郎 ・新思潮派…芥川龍之介(「羅生門」), 山本有三 ・プロレタリア文学…小林多喜二(「蟹工船」) ・児童文学…鈴木三重吉(「赤い鳥」)</p>	<p>① 大正時代</p> <p>○大正デモクラシー →護憲運動や民主主義を求める国民の運動が大正デモクラシー。</p> <p>② 第一次世界大戦</p> <p>○第一次世界大戦の開戦 ・バルカン半島は民族対立・列強の対立があり「ヨーロッパの火薬庫」と呼ばれた。 ・オーストリア皇太子がセルビアの青年に暗殺される。</p> <p>○日本の参戦と二十一か条の要求 →日本は中国侵略をねらっていた。</p> <p>○大戦景気と成金…大戦中は輸出超過で好景気となった。 ・急に大金持ちになったものを成金という。 ・好景気で力を強めた財閥が国内経済を支配するようになった。</p> <p>○ロシア革命とシベリア出兵 ・第一次世界大戦中(1917年)に起こったことを確認させること。 ・シベリア出兵はロシア革命に対する列強の干渉戦争。</p> <p>○大戦の終結 ・ベルサイユ条約 ドイツは多額の賠償金を払い、軍備は制限された。 二十一か条の要求破棄の中国の求めは無視された。 ・大戦後の世界 国際連盟にはアメリカ・ソ連・ドイツが加盟せず、また武力制裁の権限を持たなかったため力はあまりなかった。 三・一独立運動も五・四運動も国民的な反日運動である。</p> <p>③ 大正時代の政治の流れ</p> <p>○第一次護憲運動 ・この運動で、藩閥政府の桂太郎内閣が倒れた(大正政変)。 ・尾崎行雄は「憲政の神様」といわれた。</p> <p>○第一次世界大戦中のできごと ・ロシア革命→シベリア出兵の準備→米騒動→原敬の本格的政党内閣までの流れをきちんと確認させること。 ・衆議院の多数党が内閣を組織して政権を担当するのが政党内閣。</p> <p>○関東大震災の発生…戦後の不景気に追い打ちをかけた。</p> <p>○第二次護憲運動と普通選挙の実現 ・普通選挙法と治安維持法が同時に制定されたことは重要。 ・普通選挙法により有権者数は約4倍に増えた。</p> <p>④ 大正時代の社会と生活の変化</p> <p>○女性運動の高まり ・平塚雷鳥は新婦人協会を設立し、「青鞥」を出版。 ・資料中の平塚雷鳥の言葉は重要なので確認させること。</p> <p>○全国水平社…被差別部落の人々の解放をめざして設立された。</p> <p>○大正時代に入ってからようやく国民全体へ民主主義の精神が伝わり始めたことをしっかり学習させる。 労働運動や小作争議を経て法律が作られる基礎となる。</p> <p>発展学習</p> <p>① 大正時代の文化</p> <p>○市民生活の変化 →急速に近代化が進み、モダンなスタイルが取り入れられた。</p> <p>○大正時代の文学 ・白樺派…個人の自由と自己を見つめる文学であった。 ・新思潮派…新現実派ともいい、人生の現実を見つめようとする文学。 ・プロレタリア文学…働く人々の生活を小説に書いた。 ※小林多喜二は治安維持法によって処罰された。</p>

指導のねらい ★第11回～第14回までの重要事項を再確認し、徹底する。

重要事項の確認	補足知識・留意事項など
<p>① 江戸幕末期・明治大正期の人物</p> <p>(1) キーワードから確認する</p> <p>A 彦根藩, 大老, 水戸藩浪士, 江戸城暗殺→井伊直弼 B 土佐藩, 薩長同盟→坂本龍馬〔竜馬〕 C 江戸幕府 15 代将軍, 政権を朝廷に返上→徳川慶喜 D 江戸幕府幕臣, 江戸城の無血開城→勝海舟 E 薩摩藩, 新政府の重職, 士族とともに反乱→西郷隆盛 F 慶應義塾創立者, 『学問のすゝめ』→福沢諭吉 G 土佐藩, 議会の開設を求める運動, 日本初の政党の党首→板垣退助 H 早稲田大学〔東京専門学校〕創立者, 首相経験者, 第一次世界大戦→大隈重信 I 長州藩, 初代内閣総理大臣, 大日本帝国憲法→伊藤博文 J 明治の女流歌人, 戦争に反対する詩→与謝野晶子 K 東京帝国大学法学部教授, 民本主義, 大正デモクラシー→吉野作造 L 市川房枝, 女性の地位向上, 婦人参政権→平塚雷鳥〔らいてう〕 M 立憲政友会, 日本初の本格的な政党内閣→原敬</p> <p>(2) 資料の読み取り問題</p> <p>① 「元始, 女性は実に太陽」 →平塚雷鳥が創刊した雑誌『青鞜』創刊号の文章</p> <p>② 「君死にたまふことなかれ」 →与謝野晶子が雑誌『明星』で発表した詩</p> <p>③ 「現在政権をにぎっているのは」 →藩閥政治を批判した板垣退助の民撰議院設立建白書</p> <p>④ 「天は人の上に人をつくらず」 →学問に励むことの重要性を説く『学問のすゝめ』の冒頭</p> <p>⑤ 「清は朝鮮の独立をみとめる」 →伊藤博文が全権として締結した下関条約</p> <p>⑥ 「山東省のドイツの権利を日本に」 →大隈重信が中華民国政府に出した二十一か条の要求</p> <p>⑦ 「神奈川・長崎・新潟・兵庫の開港」 →井伊直弼がハリスと締結した日米修好通商条約</p> <p>(5) 大政奉還→京都の二条城で発表</p> <p>(6) 咸臨丸→日米修好通商条約の正式な手続きのためにアメリカに派遣された船</p> <p>(11) 米騒動→1918年, 富山県魚津の主婦たちが米屋をおそったことから「越中女房一揆」とも</p> <p>② 江戸幕末期から大正時代までの外交関係</p> <p>(1) 年表中の年号と前後の語句から判断</p> <p>2 日米和親(条約)→神奈川条約, 下田・函館を開港</p> <p>3 日米修好通商(条約) →安政の五か国条約, 不平等条約, 井伊直弼・ハリス</p> <p>4 下関(条約) →伊藤博文, 陸奥宗光, 台湾・遼東半島は日本の領土, 清は朝鮮の独立を認める, 多額の賠償金を入手</p> <p>5 ポーツマス(条約) →日露戦争の講和条約, セオドア＝ルーズベルト, 小村寿太郎, 韓国に対する指導権, 樺太を日本の領土, 満州鉄道の権利</p> <p>(6) 欧化政策→「鹿鳴館」が建てられた。</p> <p>(7) 日米修好通商条約＝不平等条約〔治外法権を認めた, 関税自主権がない〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1894年外務大臣 陸奥宗光→治外法権の廃止 ・1911年外務大臣 小村寿太郎→関税自主権の回復 	<p>① 江戸幕末期・明治大正期の人物</p> <p>(1) この時代になると, 写真も数多く残っているので, 確実に人名との一致を学ぶこと。日本人の特徴として明治に入るとひげをはやす人物が多くなり, 判別が難しい事もある。</p> <p>(4) ・薩摩藩＝鹿児島藩→西郷隆盛・大久保利通 ・長州藩＝山口県→伊藤博文・高杉晋作 この2つの藩が中心となり軍事政治同盟を結ぶ＝薩長同盟 やがて, 明治政府における要職や軍の幹部になっていく。</p> <p>(5) 大政奉還→江戸末期(後期から)になると幕府の力が増していた事もあり, 天皇から政治を委任されている形を取っていた。しかし, 桜田門外の変から幕末の政府が不安定になり天皇へ全権を委任する形へつながっていった。</p> <p>(7) 西郷隆盛＝維新の十傑の人物で, 明治時代の幕明けに深く関わる。 ・維新の十傑—西郷隆盛, 大久保利通, 小松帯刀(薩摩), 大村益次郎, 木戸孝允, 前原一誠, 広沢真臣(長州), 江藤新平(肥前), 横井小楠(肥後), 岩倉具視(公家)</p> <p>② 江戸幕末期から大正時代までの外交関係</p> <p>江戸幕末期から明治時代初期までの条約</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日米和親条約(1854年)—アメリカとの条約, 黒船にのったペリーが開国・通商を求めにきた。アメリカ側の燃料, 食料確保にしたがう。 ・日米修好通商条約(1858年)—アメリカとの条約, 領事裁判権をアメリカに認める。関税自主権が日本にはない。この条約は日清戦争に日本が清に勝利したあと, 日米通商航海条約が結ばれる1899年まで続く。 ・日英修好通商条約(1858年)—イギリスとの条約 ・樺太・千島交換条約(1875年)—ロシアとの条約, 樺太に対しての国境ラインを決定する条約 <p>◎ 19世紀から20世紀初頭にかけては, 帝国主義列強によるアジア支配が行われた。条約港の割譲・在留外国人の治外法権・領土の割譲, 租借などを含む不平等な条約が多くのアジア諸国に押しつけられた。</p> <p>(5) 津田梅子が開いた女子英学塾は, 現在は津田塾大学となっている。当時の政治家は日本の教育制度を整えるために,</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大隈重信—早稲田大学 ・福沢諭吉—慶應義塾大学 ・五大法律学校—法律などの教育水準が特に高い学校。法政, 明治, 専修, 早稲田, 中央 <p>上記のように政治と教育が直接結びついていた。</p>

指導のねらい ★長引く不景気と軍部の台頭について学習する。
★大陸への進出と太平洋戦争について理解する。

重要事項の確認	補足知識・留意事項など
<p>1 昭和時代 【基本 1】</p> <p>(1) 昭和時代 1926年に大正天皇が崩御、昭和天皇が即位し、天皇であった約60年間</p> <p>(2) 激動の時代「昭和」 恐慌→中国やアメリカとの戦争→敗戦→戦後の復興→経済成長</p> <p>2 恐慌と軍部の台頭 【基本 1】</p> <p>(1) 長引く不景気…1927年金融恐慌、1929年世界恐慌 (2) 巨大化する財閥…三井・三菱などの財閥は政治家と結びつく (3) 軍部の台頭 ①大陸進出に向かう日本…長引く不景気→資源や市場を求め領土を拡大→失業者の救済→軍部に対する国民の期待 ②五・一五事件(1932年)→海軍の青年将校が犬養毅首相を暗殺 ③二・二六事件(1936年)→陸軍の青年将校が政府の中心人物を暗殺 (4) 治安維持法の改正…軍部が思い通りに行動できるようにするため→軍部への批判や自由主義を厳しく取りしめる</p> <p>3 大陸への進出と日中戦争 【基本 1】</p> <p>(1) 満州事変(1931年～) ・日本軍は南満州鉄道爆破事件を起こす(柳条湖事件) ・日本は満州国を建国(皇帝は清の最後の皇帝)</p> <p>(2) 国際連盟からの脱退(1933年) ・国際連盟はリットン調査団を派遣→日本に満州からの撤退を要求 ・松岡洋右代表は国際連盟からの脱退を宣言</p> <p>(3) 日中戦争(1937年) ・北京郊外で日中両軍が武力衝突(盧溝橋事件) ・南京事件…中華民国の首都である南京を日本軍が占領多くの市民がまきこまれる→国際的に大きな非難</p> <p>(4) 戦時体制の確立…国家総動員法(1938年)、大政翼賛会など ※赤紙…兵士をおぎなう臨時召集令状のこと</p> <p>4 第二次世界大戦 【基本 1】</p> <p>(1) 第二次世界大戦(1939年～) ・ドイツはヒトラー、イタリアはムッソリーニの軍事独裁政権 ・ドイツはポーランドに侵入し、大戦が始まる</p> <p>(2) 日独伊三国同盟(1940年)・日ソ中立条約(1941年) ・A B C D包囲陣…日本を経済的に封じこめる ※アメリカ・イギリス・中国・オランダ ・日独伊三国同盟…日本・ドイツ・イタリア ・ソ連と日ソ中立条約を結ぶ</p> <p>(3) 太平洋戦争の開戦(1941年) ・近衛文麿内閣…アメリカとの交渉に失敗 ・東条英機内閣…アメリカとの戦争を開始 →ハワイの真珠湾攻撃=太平洋戦争の開始</p> <p>(4) 戦時中の日本・ドイツ ①戦線の拡大…開戦後まもなく：日本→オランダ領東インド(現インドネシア)の石油資源の確保、ドイツ→ヨーロッパのほとんどの地域を占領→ソ連にも侵攻戦線拡大と戦争長期化→連合国との兵力や物資の差が明らかに 日本→ミッドウェー海戦の敗北→日本は劣勢になる ドイツ→ソ連の反攻を受ける→ドイツも劣勢になる ②戦時中の日本…軍部による情報統制(戦争の正しい情報を伝えなかった)理由…国民の戦意を失わせないため 結果…国民の多くは日本の劣勢を知らないまま学徒出陣・学徒動員…学生や生徒も兵士や工場労働者としてかり出される皇民化政策…植民地である朝鮮や台湾では日本語使用、神社参拝、創氏改名学童疎開…都市部の空襲激化による子どもたちの集団地方疎開 ③戦時中のドイツ…ユダヤ民族への迫害が厳しくなる→アウシュビッツ強制収容所アンネ=フランク『アンネの日記』…迫害のようすを日記に記す</p> <p>(5) 日本・ドイツの敗戦 ①敗戦への道…B 29型爆撃機の日本本土空襲→日本は神風特攻隊による抵抗 ②日本・ドイツの敗戦…1945年3月、東京大空襲や沖縄の地上戦→1945年8月に広島・長崎に原爆、ソ連の満州侵攻→1945年8月15日、ポツダム宣言を受け入れる</p> <p>発展学習</p> <p>1 戦時下の国民生活 敵国であるアメリカ文化の否定(英語の使用が控えられる)、学校でも軍事に関する教育(竹やりの訓練)</p>	<p>2 恐慌と軍部の台頭</p> <p>○長引く不景気 ・世界恐慌…アメリカのニューヨークで株価が大暴落する。 ・世界恐慌はソ連をのぞく全世界に広まる。</p> <p>○財閥の台頭 ・財閥は倒産寸前の会社・銀行を合併し、産業を支配し利益を独占した。</p> <p>○軍部の台頭 ・五・一五事件…この事件により政党政治は終了した。 ・二・二六事件…この後、軍部の発言力が強まり、議会は無力化した。</p> <p>(4) 軍国主義への道…社会主義者・自由主義者などが弾圧された。</p> <p>3 大陸への進出と日中戦争</p> <p>○満州事変 ・日本軍が鉄道を爆破し、中国軍のしわざだとした。 ・満州国を中国から分離させ、日本が政治・軍事・経済の実権をにぎることとなった。</p> <p>○国際連盟からの脱退 ・これにより日本は国際的に孤立することとなったこと。 ・リットン調査団の資料は重要なので、目を通させておくこと。</p> <p>○日中戦争 ・軍部は内閣の不拡大方針を無視して南京を占領した。 ・中国では国民政府と共産党が抗日統一民族戦線を作って、日本に對抗した。</p> <p>○戦時体制の確立 ・国家総動員法…国民や物資すべてを戦争に動員できる法律。 ・大政翼賛会…政党を解散して作られた全体主義的な国民組織。</p> <p>4 第二次世界大戦</p> <p>○第二次世界大戦…ドイツは占領地でユダヤ人を迫害し大量虐殺した。</p> <p>○日独伊三国同盟 ・日独伊三国同盟で日本とアメリカとの対立は深まった。 ・日ソ中立条約で日本は北方の安全を確保しようとした。</p> <p>○太平洋戦争 ・太平洋戦争の開始で、世界はファシズム諸国側と連合国側に分かれて戦うこととなった。 ・日本は東南アジア一帯に進出し、南太平洋全域をおさえた。</p> <p>○敗戦への道…ミッドウェー海戦は1942年のできごと。</p> <p>○日本の敗戦 ・ひめゆり部隊…沖縄戦において、女学生による、傷ついた兵士の手あてをする部隊。 ・ソ連が満州に侵攻したとき、多数の逃げられなかった子どもがおり、中国残留孤児となった。 ・ポツダムはドイツの都市であり、アメリカ・イギリス・ソ連の首脳が会談した。</p>

指導のねらい ★戦後の民主化の流れについて学習する。
★日本外交と経済成長について理解する。

重要事項の確認	補足知識・留意事項など
<p>① 昭和時代(戦後) 【基本1】</p> <p>(1) 日本の敗戦 08/15 昭和天皇の玉音放送→09/02 降伏文書調印式(米戦艦ミズーリ号)</p> <p>(2) 平和で豊かな日本をめざして 連合国による占領(民主化政策)→世界有数の経済大国に</p> <p>② 戦後の民主化 【基本1】</p> <p>(1) 連合国による日本の占領…1945年, ポツダム宣言を受け入れ, 無条件降伏</p> <p>(2) マッカーサーの五大改革指令…平和で民主的な国家の建設→軍隊を解散させる→五大改革指令を日本政府に伝える</p> <p>(3) 婦人の解放…満20歳以上の男女すべてに選挙権</p> <p>(4) 労働組合の育成…労働組合法, 労働基準法</p> <p>(5) 教育の民主化…教育基本法, 学校教育法</p> <p>(6) 圧政的な諸制度の廃止…東京裁判→東条英機らの戦争犯罪人を裁く</p> <p>(7) 経済の民主化</p> <p>①農地改革…地主の農地を国が買い上げる→小作人に安く売りわたす→自作農の増加</p> <p>②財閥解体…戦争に協力して大きな利益→財閥解体(自由な経済活動)→独占禁止法</p> <p>(8) 日本国憲法の制定 ・1946年11月3日公布, 1947年5月3日施行 ・日本国憲法の三大原則内容を改訂版でも活用</p> <p>③ 戦後の外交と経済成長 【基本1】</p> <p>(1) 戦後の国際情勢</p> <p>①国際連合の発足…1945年, 国際連合が発足, 平和のための活動</p> <p>②米ソの対立…アメリカを中心とする資本主義国とソ連を中心とする社会主義国との直接戦火を交えない厳しい対立→冷戦(冷たい戦争)</p> <p>③アジアの情勢 ・朝鮮半島…大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国 ・中国…中華人民共和国(社会主義国)</p> <p>(2) 朝鮮戦争</p> <p>①朝鮮戦争の開戦…中国軍が北朝鮮を, アメリカ中心の国連軍が韓国を支援</p> <p>②日本への影響…警察予備隊の発足(日本が自国を防衛できるように), 特需景気</p> <p>(3) 日本の独立回復 1951年, サンフランシスコ平和条約, 同時に日米安全保障条約を結ぶ</p> <p>(4) その後の日本外交と経済成長</p> <p>①ソ連との国交回復…1956年, 日ソ共同宣言(鳩山一郎首相)→北方領土問題のため, 平和条約は結ばれてない ・国際連盟に加盟できる。</p> <p>②高度経済成長…1960年代, 経済は大いに発展 ・1964年…東海道新幹線, 東京オリンピック</p> <p>③韓国との国交回復と沖縄の返還…1965年, 日韓基本条約(佐藤栄作首相)1972年, 沖縄の本土復帰(佐藤栄作首相)</p> <p>④中国との国交回復… ・1972年, 日中共同声明(田中角栄首相) ・1978年, 日中平和友好条約(福田赳夫首相)</p> <p>⑤オイルショック〔石油危機〕 1973年, 中東戦争がきっかけ, 経済成長とまる ※1990年代, バブル景気の崩壊=不景気</p> <p>④ 平成時代 【基本1】</p> <p>(1) 平成時代 1989年, 昭和天皇が崩御→今上陛下が即位→激動の昭和の終わり</p> <p>(2) 平成時代のおもなできごと 1989年消費税込導入→1994年55年体制の崩壊→1995年阪神・淡路大震災</p> <p>発展学習</p> <p>① 戦後の科学・文化の発展</p> <p>・ノーベル賞初受賞—湯川秀樹</p> <p>・1970年—万国博覧会(大阪)</p> <p>・文学—太宰治, 川端康成</p>	<p>② 戦後の民主化</p> <p>○連合国による日本の占領 ・占領政策は, ポツダム宣言に基づいて軍国主義をのぞき民主国家を育てることであった。</p> <p>○日本の民主化 ・婦人の解放…婦人に参政権が与えられ, 婦人議員が誕生した。 ・圧政的なさまざまな制度の廃止 言論・出版・結社の自由が回復した。 ・教育の民主化…義務教育は9年間となった。 ・労働組合の育成…労働組合が増え, 労働争議もさかんとなる。 ・経済の民主化 農地改革…小作制度を改め, 自作農を増やす政策。 財閥解体…このため独占禁止法が制定された。</p> <p>○日本国憲法の制定…天皇は象徴とされた。</p> <p>③ 戦後の外交と経済成長</p> <p>○アメリカとソ連の対立 ・国際連合…世界平和維持のため, 五大国に大きな責任を負わせた。 また, 紛争解決のため武力制裁ができるようにした。</p> <p>○日本周辺の状況 ・朝鮮半島では北緯38度線を境に分断された。 ・1949年, 毛沢東の率いる中国共産党が中華人民共和国が建国した。</p> <p>○朝鮮戦争(1950年~1953年) ・この戦争で日本経済の復興が早まったことは重要。</p> <p>○戦後の日本と諸外国との関係 ・ソ連との国交回復 日ソ国交回復により, 1956年, 日本の国際連合加盟が認められ, 日本は国際社会に復帰することとなった。 ・韓国・北朝鮮との関係 2002年, 小泉首相は北朝鮮との国交回復交渉を行う「平壤宣言」に調印した。 ・アメリカとの新しい関係 日米安全保障条約改定の際, 十分な審議をされなかったため, 民主主義を守れとする反政府運動が全国的に広まった。 1968年に小笠原諸島が返還された。また, 沖縄にある米軍基地は返還後も残されたままである。 ・中国との関係 平和条約締結後, 中国残留日本人孤児の肉親探しが始まった。</p> <p>○高度経済成長 ・池田勇人内閣は所得倍増計画を出した。</p> <p>○オイルショック…産油国は石油の値段を大幅に上げた。</p> <p>④ 平成時代</p> <p>○平成時代の政治と経済 ・3%の消費税が始まる。社会保障費の拡大や人口減少などにより現在の8%の税率にとどまることは難しいと考えられている。</p> <p>発展学習</p> <p>① 戦後の科学・文化の発展</p> <p>・2008年には3人同時受賞をはたしたノーベル賞だが, 日本を研究の場として活躍する日本人が減り, 外国で研究の場を求めている研究者が増加している。</p>

指導のねらい ★第16回～第17回までの重要事項の再確認し、徹底させる。

重要事項の確認	補足知識・留意事項など
<p>① 戦前～戦後～現代の人物</p> <p>(1) キーワードから確認する</p> <p>A 1932年5月15日、海軍青年将校、政党政治の終わり→犬養毅</p> <p>B ドイツの総統、独裁政治、1939年第二次世界大戦→ヒトラー</p> <p>C ユダヤ人の少女、迫害、日記に記した→アンネ＝フランク</p> <p>D 太平洋戦争突入時の首相、極東国際軍事裁判で戦犯→東条英機</p> <p>E 連合軍総司令部の最高司令官、日本の民主化→マッカーサー</p> <p>F 日本国憲法公布時の首相、連合国との講和条約に調印→吉田茂</p> <p>G 中華人民共和国を建国、社会主義国家の建設→毛沢東</p> <p>H 1955年結成政党の初代総裁、国際連合加盟の実現→鳩山一郎</p> <p>I 所得倍増計画を発表、高度経済成長を実現→池田勇人</p> <p>J 日韓基本条約の締結、小笠原諸島・沖縄返還を実現→佐藤栄作</p> <p>K 日中共同声明に調印、中華人民共和国との国交回復→田中角栄</p> <p>L 元号が変わったときの首相、商品価格に3%の消費税→竹下登</p> <p>M アメリカ同時多発テロのときの首相、郵政民営化→小泉純一郎</p> <p>(3) 軍部による政治支配が強まり、軍国主義に向かう</p> <p>(5) 人類がおかしたあやまちを後世に伝える「負の遺産」</p> <p>(6) ソ連＝日ソ中立条約の締結国、オランダ＝戦争の相手国</p> <p>(7) 連合国はGHQが日本政府に指令を出し、日本政府がそれを実行するという間接統治形態で占領政策である日本の民主化を進めた</p> <p>(8) 11月3日は元々、明治天皇の誕生日で「明治節」と呼ばれていた</p> <p>② 昭和時代の戦前から戦後までの外交関係</p> <p>(1) 1 世界恐慌→社会主義経済であったソ連以外の国々に大きな影響</p> <p>2 満州事変→柳条湖事件から満州国建国までの一連のできごと</p> <p>4 国家総動員法→統制経済が強まり、生活必需品の配給制が始まる</p> <p>7 財閥解体→自由な経済活動が可能となり、多くの会社が創業された</p> <p>(2) 満州事変…南満州鉄道を爆破、満州国の建国→国際連盟の要求を不服として連盟を脱退</p> <p>(4) 太平洋戦争…真珠湾攻撃でアメリカと開戦 ※ミッドウェー海戦で敗北→沖縄戦→原爆の投下→ポツダム宣言の受け入れ 戦時下の国民生活…配給制、学童疎開</p>	<p>① 戦前～戦後～現代の人物</p> <p>(1) A 1931年に内閣を組織し、国際協調路線をとり、満州国の承認に反対したため、五・一五事件で暗殺された。</p> <p>B ナチスの党首につき、首相となった。反共産主義、反ユダヤ主義をとり、ユダヤ人を迫害した。</p> <p>C アンネ・フランクは「アンネの日記」の中でナチスのユダヤ人迫害からの逃亡の日々を綴った。</p> <p>H 日ソ共同宣言でソ連と国交を回復し、日本の国際連合加盟が達成された。</p> <p>J 佐藤栄作は非核三原則などの政策により、ノーベル平和賞を受賞した。</p> <p>K 1978年には、福田赳夫内閣のもと、日中平和友好条約が結ばれた。</p> <p>(2) ①東条英機、②犬養毅、③ヒトラー、④マッカーサーや毛沢東などの写真は必須なので、写真から人物が判断できるようにする。</p> <p>(3) 犬養毅内閣が満州国の承認に反対したという五・一五事件の背景と政党政治が終わりを告げ、軍部の力が強まったという影響をしっかりつかむ。また、二・二六事件との順序や違いに注意する。</p> <p>(5) ほかに広島原爆ドームも人類の負の遺産として世界文化遺産に登録されている。</p> <p>(10) 高度経済成長は1950年代後半から70年代前半。ア・ウは1964年、イは1950年、エは1970年。</p> <p>② 昭和時代の戦前から戦後までの外交関係</p> <p>(3) ② 日中戦争は1937年7月7日におこった盧溝橋事件をきっかけに始まり、1945年8月14日に日本がポツダム宣言を受諾するまで続いた。</p> <p>(5) 1945年3月10日の東京大空襲では、アメリカ軍のB29爆撃機の無差別爆撃により、市街地のほとんどが焼け野原になり、約10万人が死亡した。</p> <p>(6) ポツダム宣言はアメリカ、イギリス、中国(のちにソ連も加わる)が出した日本への降伏勧告である。日本は1945年8月14日に受諾し、8月15日に天皇が国民にラジオ放送で発表した。</p> <p>(11) 朝鮮戦争で、アメリカ軍への大量の軍事物資を供給したため、日本国内は特需景気とよばれる好景気になり、日本経済は戦前の水準まで回復した。</p> <p>(12) サンフランシスコ平和条約は連合国55か国のうち、48か国と結ばれた。講和会議に中国は招かれず、インド・ビルマ・ユーゴスラビアは参加を拒否、ソ連・ポーランド・チェコスロバキアは調印を拒否した。</p>